

第2期 奈良市 スポーツ推進計画

2024年9月

奈良市

目次

はじめに

◆ 第1章 第2期奈良市スポーツ推進計画について	3
1 スポーツとは・・・	3
2 計画策定の趣旨	3
3 スポーツ推進の意義	4
4 計画の位置づけ	4
5 計画期間	5
6 計画推進のための体制	5
◆ 第2章 本市のスポーツを取り巻く状況	6
1 第1期スポーツ推進計画の実績	6
i) スポーツ実施率	6
ii) 第1期スポーツ推進計画の主な取組	7
2 本市のスポーツにおける現状と課題	11
i) 社会情勢の変化	11
ii) 奈良市のスポーツ推進に向けた課題	13
◆ 第3章 スポーツ推進の基本理念と取組	15
1 スポーツ推進の基本理念	15
2 スポーツ推進の基本方針	16
3 成果指標	17
4 スポーツ推進への取組	18

はじめに

本市では、平成 25 年に奈良市スポーツ推進計画を策定し、だれでも、いつでも、どこでも、ライフステージ、運動ニーズ、運動応力・技能に合わせてスポーツを楽しめる環境を整えるとともに、スポーツ産業を育成し、スポーツを通して地域経済を活性化することにより、まちにスポーツ文化を普及させ、スポーツを支える環境を整えることで、スポーツを推進してまいりました。

このたび、この計画の期間が終了することに伴い、スポーツを取り巻く環境や社会情勢の変化を捉え、本市の現状や課題を整理し、国のスポーツ基本計画や県のスポーツ推進計画の内容を踏まえて「第 2 期奈良市スポーツ推進計画」を策定しました。

スポーツは世界共通の文化であり、健康や体力の維持増進、子どもの心身の健全な発達、人と人の交流による地域のつながりの醸成のほか、夢や感動をもたらし、本市の魅力の向上やさらには地域経済の活性化など多くの効果があります。

今後もこれらのスポーツの持つ力を最大限活用し、第 2 期奈良市スポーツ推進計画に基づき、市民だれもがスポーツに親しみをもち、スポーツを楽しみ、スポーツで地域振興を図ることにより、スポーツによるまちづくりを進めて参ります。そのためには、行政だけでなく、市民の皆様や地域、各種スポーツ団体がそれぞれ主体となって、相互に協力・連携を図りながらスポーツを推進することが重要となりますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたりご審議くださいました奈良市スポーツ推進審議会の委員の皆様をはじめ、市民や関係者の皆様に貴重なご意見、ご提言をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

令和 6 年 9 月

奈良市長

仲川 げん



◆ 第 1 章 第 2 期奈良市スポーツ推進計画について

1 スポーツとは・・・

スポーツ基本法では、「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自立心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と定義されています。また、「全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適正等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない」とスポーツはより身近なものであり、またその権利についてもうたわれています。

そこで、本市では「スポーツ」の概念を幅広く捉え、ルールに基づき勝敗や記録を競うものだけではなく、身体を動かす遊びやレクリエーション、健康づくりのための散歩やウォーキングなども含め、自発的に楽しむ身体活動全てをスポーツとして捉えていきます。

2 計画策定の趣旨

国において、平成 22（2010）年 8 月に「新たなスポーツ文化の確立」を目指し国のスポーツ政策の基本的な方向性を示す「スポーツ立国戦略」が策定され、その後、平成 24（2012）年 3 月に「スポーツ基本計画」が策定されました。

令和 4（2022）年 3 月には、「第 3 期スポーツ基本計画」が策定され、第 2 期スポーツ基本計画の基本方針に、「つくる／はぐくむ」、「あつまり、ともに、つながる」、「誰もがアクセスできる」という 3 つの新たな視点を加えるとともに、これらの視点を支え、東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京 2020 大会」という。）のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けた総合的かつ計画的に取り組む施策が示されました。

本市では、スポーツ基本法に基づき、平成 25（2013）年に「奈良市スポーツ推進計画」（以下「第 1 期スポーツ推進計画」という。）を策定し、5 年が経過した平成 30（2018）年にそれまでの取組を点検するとともに計画の一部見直しを行い、本市のスポーツ推進のための施策を展開してきました。

令和 5（2023）年度で「第 1 期スポーツ推進計画」の計画期間が終了しましたが、これまでの間に取り組んできたスポーツイベントの開催や施設の整備など様々なスポーツ活動の推進を今後も継続させることに加え、時代の流れに沿った考え方・施策を取り入れていくほか、第 1 期スポーツ推進計画策定以降におけるバンビシャス奈良（バスケットボール）の B リーグ参戦、奈良クラブ（サッカー）の J リーグ参入などのプロスポーツが地域にもたらした新たな価値をより一層向上していく必要があります。また、奈良県においては令和 13（2031）年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催が予定されており、これを契機とし

たスポーツの振興・推進、スポーツを通じた地域の活性化、本市の様々な魅力の全国への発信が重要となっています。

そこで、令和6（2024）年度以降もさらなるスポーツの推進を図っていくため、「第2期奈良市スポーツ推進計画」を策定しました。

3 スポーツ推進の意義

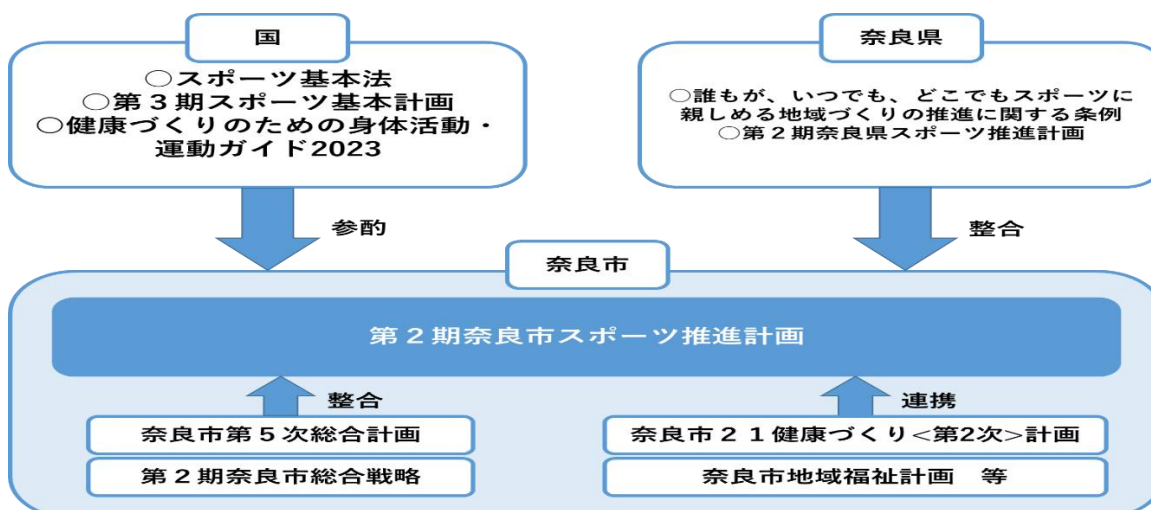
スポーツに親しむことによって、体を動かすという人間の本源的な欲求を充足するとともに爽快感、達成感、他者との連帯感等、精神的な充足も図れ、体力の向上やストレスの発散、健康の維持・増進など、心身両面にわたる健康の保持・増進につながります。さらに、他者を尊重する意識や協調性、自立性や公平さを学ぶ態度、実践的な思考力や判断力を育むといった青少年をはじめとした健全育成にも大きな影響を与えます。

また、スポーツを親しむ人が増えることで、人間関係の希薄化等の問題を抱えている地域社会の再生などの地域コミュニティの醸成や、健康保持・増進による健康寿命の延伸や医療・介護費用の削減・抑制、スポーツ産業の振興による地域経済の活性化などの効果が期待できます。

このように、スポーツを推進することでスポーツを行う個人が楽しみ、喜びなどを得られるだけでなく、地域課題の解決へのつながりも期待できます。

4 計画の位置づけ

第2期スポーツ推進計画はスポーツ基本法に基づき、「第3期スポーツ基本計画」の目指す方向性や趣旨を参酌し、上位計画である「第5次奈良市総合計画」や国の「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」、奈良県の地方スポーツ推進計画である「奈良県第2期スポーツ推進計画」との整合を図った上で、本市の実情に即したスポーツに係わる基本計画として策定します。

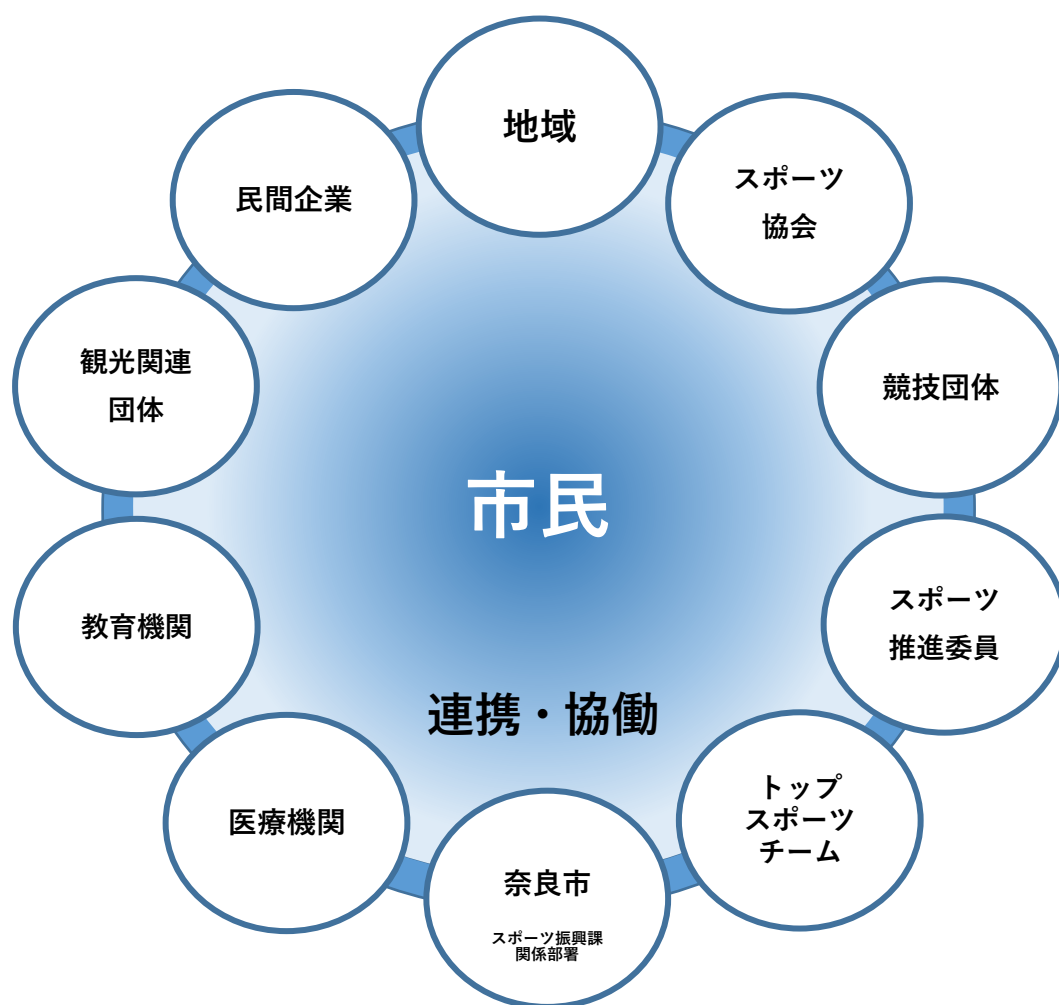


5 計画期間

計画期間は、令和 6（2024）年度から 10 年間とします。ただし、計画期間中の本市のスポーツを取り巻く状況や社会情勢等の変化に対応するため、おおむね 5 年後に見直しを行います。

6 計画推進のための体制

本計画で定めた目標を達成するため、教育や健康医療、福祉、観光部門など様々な庁内部署、スポーツ協会や各競技団体、スポーツ推進委員、トップスポーツチームなどのスポーツ関連団体、民間企業や医療機関、観光関連団体と連携・協働して計画の実現を目指します。



◆ 第2章 本市のスポーツを取り巻く状況

1 第1期スポーツ推進計画の実績

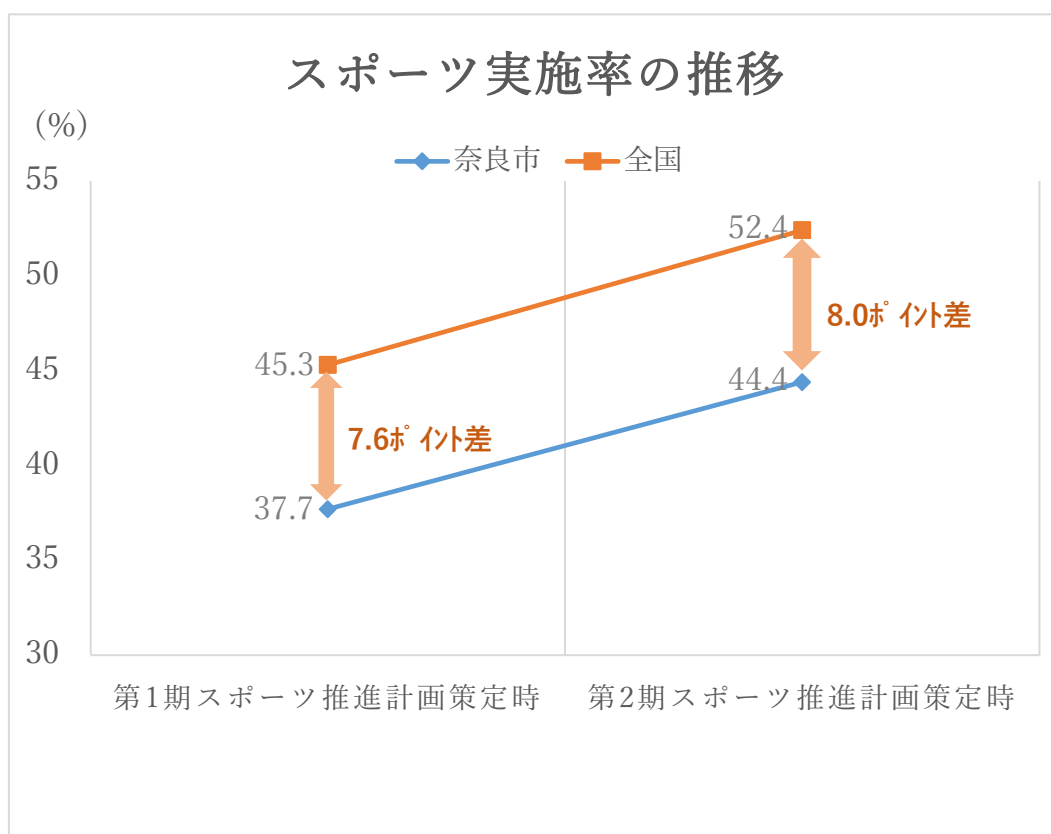
i) スポーツ実施率

第1期スポーツ推進計画では施策の成果を測定する指標を様々設定しました。その中でも第1期スポーツ推進計画における基本理念や基本方針の成果を確認するうえで一番重要と考えられるのが「1回30分以上、週1回以上運動習慣のある人の割合（以下、「スポーツ実施率」という。）」です。

第1期スポーツ推進計画策定時（平成23年度）に市民を対象として行ったアンケートによると、当時のスポーツ実施率は37.7%で、平成21年の国の世論調査によるスポーツ実施率45.3%を7.6ポイント下回っていました。

令和4年度に実施した市民を対象としたアンケートでは、44.4%と前回は6.7ポイント上回りました。一方で、令和4年度の国の世論調査によるスポーツ実施率は52.4%であり、本市との差は8ポイントと、平成23年度より広がっています。

第1期スポーツ推進計画の取組などにより、本市におけるスポーツ実施率は上昇したものの、国全体でも上昇しておりその差は広がっています。



ii) 第1期スポーツ推進計画の主な取組

第1期スポーツ推進計画では、まち全体でスポーツを推進し、スポーツ活動が活発になることにより、まちの活力と魅力が向上する、またその活力と魅力がさらなるスポーツ推進へとつながっていくといったまちづくりの良い循環を作り出すことを目指し、「スポーツでまちづくり」を基本理念に掲げ、2つの基本方針に沿ってスポーツ推進に係わる施策を展開してきました。基本方針に沿って主な取組内容を取り上げます。

①基本方針1：市民のスポーツ活動の推進

基本方針1では、誰でも、いつでも、どこでも、ライフステージ、運動ニーズ、運動能力・技能に合わせてスポーツを楽しめる環境を整えることを目的として施策を実施してきました。

◆既存施設の有効利用

休館日にスポーツ教室の開催やバンビシヤス奈良の公式戦を行うことで休館日を少なくしました。また、鴻ノ池陸上競技場に夜間照明を設置することで夜間利用を可能とし、施設の利用時間の拡大を図りました。

平成28(2016)年10月からは、鴻ノ池運動公園及び同公園内スポーツ施設のネーミングライツ(命名権)を導入し、安定的な財源を確保することにより、施設の良好な運営に努めています。



鴻ノ池陸上競技場夜間照明

◆学校開放の拡充

市立小、中学校の体育施設について、学校教育で利用している以外の時間について地域に開放し、社会体育の利用に供しました。

◆ウォーキングコースの整備

鴻ノ池運動公園内のウォーキングコースへの照明設置や路面の整備などを行うとともに、ランニングコースの新たな整備やランニングステーションを設置し、市民の健康維持・増進に貢献しました。

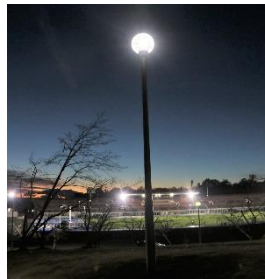


鴻ノ池運動公園内ランニングコース

◆時代のニーズに合わせた施設の改修・改善

各スポーツ施設のトイレの洋式化を進めています。また既存の照明をLED照明に変更することでランニングコストの削減や二酸化炭素排出量を抑制しています。

さらに、遊びの要素を取り入れた「アーバンスポーツ（都市型スポーツ）」が若者や子どもの間で広がりを見せており、従来から整備を求める声に加え、東京 2020 大会を契機としたスケートボード熱の高まりも背景として、鴻ノ池運動公園内にスケートボードパークを整備しました。



公園内LED照明



スケートボードパーク

◆スポーツ教室の拡充

スポーツに触れる、親しむ機会を創出するためのスポーツ教室について、市民や時代のニーズに合った内容に変更しながら拡充し、定期的の実施しました。

◆ニュースポーツの拡大支援

スポーツ推進委員が県内外の研修に参加して習得したニュースポーツを、各地域で開催しているスポーツ教室において実践し、市民への普及に努めています。

◆トップアスリートとの交流

Top Sports City 奈良のパートナーチームが集まり行うイベント「Enjoy スポーツ大作戦」を開催し、トップアスリートとの交流の場を設けるなどして子ども達がアスリートを目指すきっかけを創出しました。また、トップスポーツチームによる学校巡回教室も実施し、選手による実技指導や講演等を通じて、体を動かすことの楽しさやスポーツの素晴らしさ、夢や目標を持つことの大切さを児童・生徒に伝えました。



TopSportsCity 奈良大運動会

◆運動の指導、普及のための指導者の育成・活用

スポーツ推進委員により市内各地域において軽スポーツ等の指導・普及を行い、広く市民にスポーツの推進を図りました。

◆選手育成に向けたインセンティブの提供

本市に居住する選手等が競技大会へ派遣され、優秀な成績を収めた場合に当該選手等に対し奨励金を交付する制度を設け、競技力とスポーツ水準の向上に寄与しました。



表敬訪問の様子

②基本方針2：スポーツ産業の振興

基本方針2では、スポーツ産業を育成し、スポーツを通して地域経済を活性化することにより、まちにスポーツ文化を普及していくこと、スポーツを支える環境を整えることを目的とした施策を実施してきました。

◆トップスポーツへの対応に向けた施設改善

鴻ノ池陸上競技場については、第一種公認を継続できるように改修工事を行いました。また、奈良クラブがJリーグのライセンスを取得できるようインフィールドの拡張工事や夜間照明の設置などを行いました。

中央体育館については、バンビシャス奈良がBリーグのライセンスを取得できるよう、また観戦環境の向上を図るため大型映像措置の設置や動画配信に対応したインターネット環境の構築など施設設備の整備を行いました。



大型映像装置

◆ストリートスポーツを楽しめる場の創出

東京 2020 大会におけるスケートボード競技の盛り上がりもあり、鴻ノ池運動公園内にスケートボードパークを整備し、アーバンスポーツを楽しめる新たな場を創出しました。



スケボー競技の様子

◆トップスポーツの観戦機会の拡充

鴻ノ池陸上競技場は奈良クラブのホームスタジアムとして、また中央体育館はバンビシャス奈良のホームアリーナとして公式戦等を行い、市民がトップレベルのスポーツに触れられる機会を設けています。また、両チームの地域貢献活動として公式戦の市民無料招待を行い、地元のチームをより身近に感じ、愛着を持ってもらうような活動を行いました。



奈良クラブ市民デーの様子

その他、バレーボールのVリーグ、ラグビートップリーグや女子サッカーなでしこリーグ、女子バスケットボールWリーグなどの試合も開催しました。

◆地域によるプロチームの育成、支援

応援フラッグの掲示や、施設利用に対する支援など Top Sports City 奈良のパートナーチームの活動を様々な角度から応援し、支援を行いました。



応援フラッグ

③基本方針①②に共通した施策

◆活動機会を紹介する情報の提供

市主催のスポーツイベントや施設の指定管理者が行うスポーツ教室などの開催状況を市のホームページやしみんだより等で広報し、市民に情報を提供しました。

◆トップスポーツを支える情報発信

しみんだよりや市内駅に設置してあるデジタルサイネージにおけるパートナーチームのホームゲーム開催の告知やSNSによる試合情報などの拡散を行い、情報発信を行いました。



デジタルサイネージを活用した情報発信

◆プロチームとタイアップしたまちづくり

パートナーチームのホームゲーム開催時に市役所ブースの出展やハーフタイムでの活動内容の宣伝、イベントの共催、ユニフォームへの「奈良市」の広告掲載による本市のPRや市事業の広報活動を協働して行うなど、まちづくりや地域振興につながる活動を行いました。



ユニホーム広告

◆東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組

オーストラリアを相手国としたホストタウン事業を行い、女子サッカーチームの事前キャンプ地になりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により東京2020大会を契機とした活動を行うことはできませんでした。



女子サッカーオーストラリア代表

2 本市のスポーツにおける現状と課題

第 2 期スポーツ推進計画を策定するにあたり、本市の現状と課題を把握する必要があります。

そこで、スポーツを取り巻く時代の流れを察知することや市民を対象に行ったアンケート結果等から得られた情報により本市の現状・課題を見だし、第 1 期スポーツ推進計画策定以降の社会情勢の変化やスポーツ推進に向けた課題を取り上げます。

i) 社会情勢の変化

①新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ施設の利用制限、運動部活動やスポーツ大会、イベントの延期・中止などによるスポーツ活動の減少などが生じました。一方で、スポーツは心身の健康づくりなどによる人々の暮らしを豊かにするもの、人と人のつながりをもたらす地域コミュニティの形成に重要なものと再認識され、スポーツの価値や重要性を改めて感じるきっかけともなりました。

スポーツ自体の在り方も仲間と施設で楽しむものから、一人で自宅でまたはその周辺でも取り組むもの、また動画配信によりスポーツに参加する・見るなど幅広く捉えることが重要となってきています。

②人口減少と少子高齢化の進行

本市の人口は平成 17(2005)年旧月ヶ瀬村と旧都祁村との合併時をピークに減少に転じ、令和 22(2040)年には 29.7 万人まで減少すると見込まれています。また、平成 27(2015)年には 28.7%であった高齢化率(65 歳以上人口の割合)は、令和 22(2040)年には 40%を上回る見込みです。人口減少及び少子高齢化により生産年齢人口が減少し、高齢者の積極的な社会参加がこれまで以上に求められています。このことから、スポーツの果たす役割は、高齢者の健康や生きがいのある豊かな暮らしを支えていくうえで、今後、ますます大きくなっていくと考えられます。

③多様性を認め合う社会の推進

さまざまな人々が、すべて分け隔てなく暮らしていくことができ、障害のある人もない人も、支える人と支えを受ける人に分かれることなく、ともに支え合い、さまざまな人々の能力が発揮されている活力ある社会を「共生社会」と言います。

これからはスポーツの場においても、性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様性を尊重し多様な主体がスポーツに参画できる環境を整えていくことが重要です。

④国際スポーツ大会のレガシー

東京 2020 大会の開催によりもたらされた「する」「みる」「ささえる」に加えた新たな価値、経験、効果などの有形・無形の「スポーツ・レガシー」を継承し発展させていくため、持続可能な国際競技力の向上やスポーツへの関心を活かした地方創生・まちづくりなど、東京 2020 大会のレガシーを施策に取り込んでいくことが求められています。

⑤持続可能な社会の実現

「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）については、国際社会の共通目標であり本市の総合計画においても SDGs のゴールを見据えながら、施策に取り組んでいます。

第 2 期スポーツ推進計画においても、持続可能な社会の実現を目指し、スポーツを推進していくことが重要となります。



SDGs17 のゴール（出展：国際連合広報センター）

ii) 奈良市のスポーツ推進に向けた課題

①年代や世代、性別などを踏まえたスポーツ活動の習慣化

働く世代や子育て世代、女性のスポーツ実施率が他の世代や男性より低くなっています。これらの世代や性別による差は、仕事や育児、家事に優先的に時間を費やすことが原因と考えられます。働く世代や子育て世代などが、仕事や育児、家事の繁忙な中においても、気軽に安心してスポーツに取り組める場や機会を提供していく必要があります。

また、高齢者のスポーツ実施率は高くなっているものの、人生 100 年時代を迎えようとする中で、健康寿命を延ばし、心身の健康づくりや仲間づくり、介護予防や医療費の削減にもスポーツの効果がさらに期待されています。

これらのことを考慮し、年代や世代、性別などを踏まえたスポーツ活動を促進する取組が必要となります。

②子どものスポーツへの興味・関心の向上や触れる機会の拡大

本市の小・中学生の体力は、全国平均と比較しても低く体力向上は大きな課題となっています。最近ではテレビゲームやスマートフォンの普及により、それらの画面を見るスクリーンタイムの増加が体力低下の要因の一つと言われています。また、少子化の影響から児童・生徒数が減少し、スポーツ少年団の団数・団員数の減少、中学校部活動の活動部数の減少などスポーツ活動の場も減少しています。

そこで、子ども達がスポーツに興味・関心を持ち、スポーツに触れ、スポーツを楽しむ機会を創出していくことが重要となります。また、生涯に渡りスポーツに継続して親しむための資質や能力を育成していく必要があります。

③障害者がスポーツに親しめる環境づくり

本市の障害者のスポーツ活動は奈良市総合福祉センターを拠点とし、スポーツ教室や各種大会、クラブ活動が行われています。

東京 2020 大会による障害者スポーツの気運の高まりを維持し、障害者がスポーツに親しむことの出来る環境づくりが必要です。

④スポーツ活動の場の確保と施設整備

本市は他の中核市と比較して、スポーツ施設数は平均並みであるものの施設の床面積や敷地面積が狭く、全ての施設が老朽化している状態です。また、市内には県立の体育館やグラウンド、プール（学校施設を除く）も少なく、利用者のニーズに十分に応えられていない状況です。

増設を含めた施設整備や改修、既存施設の有効活用により、スポーツ活動の場を確保していくことが重要です。

⑤スポーツ人材の確保・育成

競技スポーツ、スポーツイベント、スポーツ教室などの活動機会を拡充していくためには、指導者や運営スタッフの確保が不可欠となることから、様々なスポーツ人材の確保、研修等の実施による育成、活用が重要となります。

また、スポーツの様々な場面を支えるスポーツボランティアの存在も重要であり、地域社会におけるスポーツ振興や健康づくりに貢献する人材としても期待されています。

これからはスポーツを「ささえる」観点から、指導者、運営スタッフ、スポーツボランティアの発掘・育成・定着に向けた取組を実施する必要があります。

⑥トップスポーツチームとの連携、スポーツ産業の発展

本市には、バンビシャス奈良、奈良クラブ、奈良ドリーマーズ、南都銀行 SHOOTINGSTARS といったトップスポーツチームがあり、「Top Sports City 奈良」のパートナーチームとして連携・協力し、スポーツ振興や地域振興への取組を推進しています。

今後も連携を深め、各チームの認知度の向上、地元チームへの愛着の醸成を図るとともに、各チームの試合の観戦者を増加させること等により、スポーツ産業の発展へと繋がる取組が必要です。

⑦国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会への取組

奈良県では令和 13（2031）年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催される予定で、本市では多くの競技の開催が見込まれます。

これを契機としたスポーツ施設の整備や市民のスポーツへの関心を高め、日常的なスポーツ活動の実施につなげる取組をする必要があります。

◆ 第3章 スポーツ推進の基本理念と取組

1 スポーツ推進の基本理念

国の第3期スポーツ基本計画において、中長期的な基本方針は踏襲するものの、「する」「みる」「ささえる」に「つくる／はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」の新たな視点を加えてスポーツの推進に取り組んでいくことが示されました。

本市でも、本市の第1期スポーツ推進計画の根本的な考え方は踏襲しつつ、施策に取り組むにあたり国が示す第3期スポーツ基本計画や健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023など、新たな視点も取り入れ発展させていくこととします。

基本理念：スポーツでまちづくり・ひとづくり

第2期スポーツ推進計画においては、第1期スポーツ推進計画の基本理念「スポーツでまちづくり」に「ひとづくり」を加え、「スポーツでまちづくり・ひとづくり」を基本理念とします。

スポーツ活動を活性化させることによりまちの活力や魅力を高め、スポーツによりひとを育むことを推進します。

また、この基本理念に基づき、市民、スポーツに関わる各種団体、事業所等と連携・協力してまち全体でスポーツを推進し、スポーツを生かした地域の活性化を図り、スポーツを柱の一つとしてまちづくり・ひとづくりを進めます。

これらまちづくり・ひとづくりを進め、その結果、まち・ひとによりさらにスポーツの推進につながるといった、スポーツとまちづくり・ひとづくりの好循環が構築されることを目指します。

2 スポーツ推進の基本方針

基本理念である「スポーツでまちづくり・ひとづくり」を実現していくため、4つの方針を軸にスポーツ推進に係わる施策を展開します。

◆課題と方針の対応について

課 題	4つの方針			
	1	2	3	4
	誰 も が ス ポ ー ツ に 参 加 で き る 機 会 の 創 出	ス ポ ー ツ を す る 環 境 の 整 備	ス ポ ー ツ 人 材 の 育 成	ス ポ ー ツ に よ る 地 域 振 興
i 年代や世代、性別などを踏まえたスポーツ活動の習慣化	○	○		
ii 子どものスポーツへの興味・関心の向上や触れる機会の拡大	○	○	○	
iii 障害者がスポーツに親しめる環境づくり	○	○	○	
iv スポーツ活動の場の確保と施設整備	○	○		
v スポーツ人材の確保・育成			○	
vi トップスポーツチームとの連携、スポーツ産業の発展		○		○
vii 国スポ・全スポへの取組		○	○	○

方針1：誰もがスポーツに参加できる機会の創出

全ての市民がスポーツに親しみ、楽しむことのできる機会の創出・充実を図ります。また、性別、年齢、障害の有無などを問わず、誰もがスポーツの楽しさや価値を実感し、スポーツを通じた豊かな生活を送ることができる取組を推進します。

方針2：スポーツをする環境の整備

市民だれもが身近な場で、日常的かつ気軽に、安全で安心してスポーツに取り組めるように環境整備に努めます。また、プロスポーツの試合開催や国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向け、選手・観客に快適な環境を提供できるよう整備・充実に努めます。

方針3：スポーツ人材の育成

市民がそれぞれのレベルやニーズに合わせてスポーツ活動を送るために適切な指導を行うことができる指導者の育成・確保に努めます。また、トッププレイヤーやスポーツボランティアなどスポーツの普及に欠かせない人材を幅広く確保・育成していきます。

方針4：スポーツによる地域振興

多くの市民のスポーツ活動やプロスポーツの活動に加え、イベント内容やプロスポーツチームとの連携によるブランディングなど、スポーツマーケティングを行うことで、本市への社会的効果や経済的効果が発揮されるようスポーツの力を活用します。

3 成果指標

本計画の達成度を測る指標として、以下の目標を設定します。

成人の週1回以上のスポーツ実施率^{※1} **70%以上**

奈良市はスポーツが盛ん・スポーツがしやすいまちと思う市民の割合^{※2}

70%以上

※1 身体を動かす遊びやレクリエーション、散歩、ウォーキングなど自発的に楽しむ身体活動を全て含みます。

※2 プロを含めた競技スポーツだけではなく、各地域でのスポーツイベントや大会、市民のスポーツ活動の盛んさとそれらを行う環境も含みます。

4 スポーツ推進への取組

本市のスポーツ推進における現状と課題を踏まえ、スポーツ推進に向けた取組を進めていきます。

◆7つの課題と取組の対応について

7つの課題							取 組
1	2	3	4	5	6	7	
年代や世代、性別などスポーツ活動の習慣化	子どものスポーツへの興味・関心の向上や触れる機会の拡大	親しめる環境づくり	障害者がスポーツに確実と施設整備	スポーツ活動の場の確保・育成	スポーツ人材の連携、スポーツ産業の発展	トップスポーツチームとの全国障害者スポーツ大会への取組	
○	○		○				1 市民が参加できるイベント・大会の実施
○	○		○				2 生涯スポーツの推進
○	○		○				3 働く世代、子育て世代のスポーツを楽しむ機会の創出
○			○				4 高齢者向けスポーツの充実
○		○	○				5 障害者がスポーツを楽しむ場の創出
○	○		○				6 児童・生徒のスポーツ機会の充実
○	○		○				7 スポーツの実施頻度が低い層への取組
	○		○				8 スポーツ施設の有効活用
	○		○				9 学校施設の活用（学校開放）と整備
	○		○				10 スポーツ施設の利用利便性の向上
	○		○				11 市民・時代のニーズに合った施設整備
		○	○				12 施設のバリアフリー化
	○			○			13 地域スポーツ活動の指導者の育成・支援
				○	○	○	14 スポーツボランティアの確保・育成
				○			15 アスリートの支援
○	○			○			16 スポーツ推進委員との連携・協働の推進
			○		○		17 トップスポーツへの対応に向けた施設整備
	○				○		18 トップスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信
					○		19 スポーツツーリズムの推進
	○		○	○	○		20 大規模スポーツイベント（大会）の誘致、開催支援
○	○		○				21 スポーツ情報の充実・広報
	○		○				22 新たなスポーツへの取組
			○	○		○	23 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催を契機としたスポーツ施策等の展開

取組 1 市民が参加できるイベント・大会の実施

市民が日頃の練習の成果を発揮するとともに競技力の向上を図るため、市スポーツ協会等と連携して市民スポーツ大会や各競技の大会などを開催し、多くの市民が参加できる環境を整えます。

また、スポーツ体験フェスティバルや各種スポーツ教室をより魅力のあるものにするとともに新たなイベントも企画して、多様なスポーツに身近で気軽に参加でき、体験できる機会を創出します。



スポーツ体験フェスティバル

取組 2 生涯スポーツの推進

年代、性別、障害の有無などに係わらず、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象としたスポーツ教室やイベントを実施する一方で、年代や体力、関心に合ったスポーツ教室やイベントなどを実施し、スポーツに親しむ機会の充実を図ります。

また、体育館などのスポーツ施設に加え、ウォーキングコースやランニングコース、公園の整備といったウォーキング、ジョギング、体操などの活動に適した整備も進め、スポーツ活動の中核的機能を担うスポーツ施設の基盤整備を行います。



イベントの様子

取組 3 働く世代・子育て世代のスポーツを楽しむ機会の創出

働く世代のうち、特にスポーツ実施率が低い 30 歳代が気軽にスポーツに取り組めるように、夜間や休日のスポーツ教室等の実施やより魅力ある内容への変更を推進します。

また、子育て中の親が安心してスポーツに取り組めるように、親子で楽しむことができる運動教室や親子参加型のイベントの充実、また気軽にスポーツに取り組める場の提供を図ります。さらに、働く世代・子育て世代にこれらの取組や健康に関する情報などを提供できるよう、広報にも注力します。



取組 4 高齢者向けスポーツの充実

高齢者はスポーツ実施率が高く健康や体力づくりにも関心が高いため、今後も継続してスポーツに取り組めるようにスポーツが行いやすい場の提供と、スポーツに参加しやすい仕組み作りを行っていきます。



また、今後迎える超高齢化社会に向け、個々の健康状態に応じて参加できる医療と連携した健康・体力づくり、介護・フレイル予防に繋がる健康増進についてスポーツを通じて行っていきます。



地域のスポーツ活動の様子

取組 5 障害者がスポーツを楽しむ場の創出



障害者のスポーツ活動の機会を確保するため、奈良県障害者スポーツ大会や軽スポーツ大会への参加促進、障害の有無にかかわらず参加できるイベントの開催、奈良市総合福祉センター等でのスポーツ教室やスポーツ大会等の充実を図ります。

また、奈良県障害者スポーツ協会や奈良県障害者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者のスポーツを支える人材の育成にも努めます。

取組 6 児童・生徒のスポーツ機会の充実



奈良市スポーツ協会を通じてスポーツ少年団の活動を支援し、活動が活発化するよう努めます。また教育委員会とも連携して、小中学校での体育授業や体力づくりの取組を充実します。



加えて、部活動指導員の配置による部活動の活性化を進めるとともに、部活動の地域移行についても学校等と連携・スポーツ少年団体力づくり大会協働して、児童・生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築します。

取組 7 スポーツの実施頻度が低い層への取組



40 歳代や 50 歳代の女性などに多いスポーツの実施頻度が低い層に対し、スポーツは特別なものではなく、ウォーキングや家でのストレッチなども含むものと意識付けを行い、身近なところからスポーツを始めるよう働きかけます。

また、医療や教育など他分野との連携によるスポーツ活動への誘引策を実施することで、スポーツ活動の習慣化へ導きます。

取組 8 スポーツ施設の有効活用

屋外スポーツ施設への照明整備による夜間の利用拡大など運用面での改善を行います。

また、スケートボードパークの整備をはじめとした施設整備などにより施設自体の魅力を向上させることで、公共施設の名前を付与する命名権（ネーミングライツ）により得られる歳入を増加させ、それを活用し、より良い施設へ整備することで良い循環を生み出します。



ランニングコース夜間照明

取組 9 学校施設の活用（学校開放）と整備

市民にとって身近な場所にある市立小・中学校の体育施設の開放を継続して行い、市民にスポーツを楽しめる場所を提供します。

また、教育委員会と連携して学校体育施設の整備を行うとともに、学校開放用トイレについて計画的に整備し、環境整備にも努めていきます。



学校開放用トイレ

取組 10 スポーツ施設の利用利便性の向上

指定管理者制度を用いて施設の管理をしていることから、民間のノウハウ等を活用した柔軟な施設管理運営を行います。

また、施設の予約や使用料の支払い方法についてDX化を推し進め、時流にあったシステム構築を行うとともに、施設に付属する駐車場やその他環境の整備も行うことで利用者の利便性の向上を図ります。



取組 11 市民・時代のニーズに合った施設整備

本市のスポーツ施設は施設自体だけでなく、設備や備品なども機能が古く老朽化していることから、市民・時代のニーズにあった、かつ計画性をもった施設・設備・備品の整備や改修を行います。

また、若者に人気のあるスケートボードや3×3といったアーバンスポーツ等、新たなスポーツの活動場所についても創出できるよう努めます。



取組 12 施設のバリアフリー化



全ての市民が本市スポーツ施設等を利用し、スポーツに親しみ、楽しむことの出来るようにするため、計画的に施設のバリアフリー化を推進します。

取組 13 地域スポーツ活動の指導者の育成・支援



地域のスポーツ活動における指導者を養成するため、スポーツ活動の指導に関する知識、技能を習得できる講座等を競技団体や大学等と連携・協力して行い、地域で活躍できるよう後押ししていきます。

取組 14 スポーツボランティアの確保・育成



大規模スポーツイベント等に欠かせない存在であるスポーツボランティアについて、市ボランティア関連部署や県、トップスポーツチームと協力し、ボランティアの募集や登録、人材育成や啓発を行いボランティア活動が活発になるよう取組を進めます。



ボランティアの様子

取組 15 アスリートの支援



アスリートを支え、育成するため、全国・世界レベルで活躍する選手・団体を対象に奨励金の交付や表彰などを行います。

また、地元チームや地元ゆかりの選手を市や地域で応援することで市民の連帯感を生みだし、スポーツで地域を盛り上げることに繋がります。



奨励金の交付

取組 16 スポーツ推進委員との連携・協働の推進



スポーツ推進委員の活動を充実させるため、実技研修会の開催やスポーツ教室活動の取組等を支援します。また、スポーツ推進委員と連携・協働して広報活動を促進することで、市民のスポーツ推進委員に対する認知度を高め、自治会等とも協力して市民のスポーツ活動への参加を促しスポーツの推進に努めます。



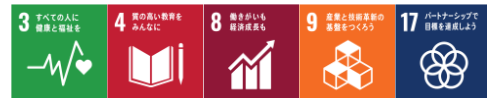
実技研修会の様子

取組 17 トップスポーツへの対応に向けた施設整備



中央体育館ではバンビシャス奈良、奈良ドリーマーズ、陸上競技場では奈良クラブの公式戦、その他各世代の近畿大会等が各施設で開催されていますが、施設の老朽化等により利用ニーズに対応できていません。プロスポーツを含めたトップスポーツの大会・試合を積極的に誘致し開催できる施設へ、計画的に整備を進めます。

取組 18 トップスポーツチーム等と連携したスポーツの魅力発信



奈良市ホームタウン推進パートナー事業「Top Sports City 奈良」のパートナーチームと連携し、ホームゲームを市内会場で開催します。これにより、子どもをはじめ、多くの市民がトップレベルのスポーツを観戦する機会が増え、スポーツの魅力を感じ、スポーツへの興味・関心を高めるとともに、地元チームへの愛着を深めることに繋がります。

また、トップアスリートと交流できるイベントや学校巡回教室を継続して行い、スポーツの素晴らしさや魅力を多くの市民に伝えます



TopSportsCity 奈良パートナーチーム

取組 19 スポーツツーリズムの推進

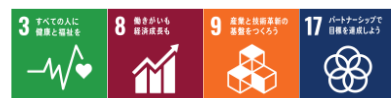


本市は東大寺や興福寺などの世界遺産を含む多くの文化財を有する観光都市です。そこで、トップスポーツの試合観戦などのスポーツ資源と観光資源とを組み合わせ相乗効果を生み出し、地域や経済を活性化するスポーツツーリズムを推進します。



鹿とランナー

取組 20 大規模スポーツイベント（大会）の誘致、開催支援



全国大会などの大規模スポーツイベント（大会）を誘致・開催することでトップレベルのスポーツ観戦の機会を増やし、本市のスポーツの競技力や水準の向上を図ります。また、イベント開催に協力するスポーツボランティアの活動の場とするとともに、イベントを通じて本市を発信することにより、地域の発展につなげます。

取組 21 スポーツ情報の充実・広報

スポーツイベントやスポーツ施設などスポーツ関連情報の発信の充実を図ります。特に、年代によって情報を得るコンテンツに違いがあることから、情報を提供するターゲットに合った方法での広報を行います。



ならしみんだよりと課公式 X (旧 Twitter)

取組 22 新たなスポーツへの取組

東京 2020 大会の日本人選手の活躍により注目を浴びたスケートボードなどのアーバンスポーツ、アジア競技大会の正式種目となったエレクトロニックスポーツ（e スポーツ）、新たにオリンピック競技となるブレイキンなど、新たなスポーツの普及や取り組む機会の創出に努めます。

取組 23 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催を契機とした スポーツ施策等の展開

両大会の開催に向け、競技大会や練習会場の整備を県や競技団体と調整しながら進め、両大会終了後も将来にわたり広く市民の利用に供せるようにします。

また、両大会を今後の本市のスポーツ振興や地域活性化につなげていくため、大会期間中だけでなく、大会終了後もレガシーを活用し地域にスポーツが根付くよう施策等を展開します。

資料編

スポーツ推進審議会 委嘱委員・・・ 26

アンケート調査報告・・・ 27

奈良市スポーツ推進審議会 委嘱委員

令和4年12月1日～令和6年11月30日

	氏名	選任の根拠
1	かさなみ りょうじ	学識経験者
	笠次 良爾	奈良教育大学 保健体育講座 教授 (学校保健・スポーツ医学)
2	あまの あきら	
	天野 明	奈良市スポーツ協会 会長
3	たかはし ひでさと	学識経験者
	高橋 豪仁	奈良教育大学 保健体育講座(体育学) 教授 (スポーツ社会学)
4	なるせ くみ	学識経験者
	成瀬 九美	奈良女子大学 スポーツ健康科学領域 教授 (健康学)
5	のさか よしまさ	学識経験者
	野阪 善雅	独立行政法人 国立病院機構 大阪南医療センター 救急科 医師(スポーツドクター)
6	ほしの さとこ	学識経験者
	星野 聡子	奈良女子大学 学長補佐 (スポーツ科学)
7	よねだ ゆき	行政関係者
	米田 由喜	奈良市市民部理事(女性活躍推進) (任期 令和4年12月1日～令和5年3月31日)
	ふくやま あけみ	行政関係者
	福山 明美	奈良市市民部理事(女性活躍推進) (任期 令和5年4月1日～令和6年11月30日)

アンケート調査報告

調査の概要

1. 調査目的

本調査は、運動・スポーツに対する市民の意識とその動向を把握し、運動・スポーツへの関心度や運動の効果を測定して、今後のスポーツ活動の推進に向けて将来計画を策定し、スポーツに親しめる環境づくりを計画的に推進することを目的として実施した。

2. 調査方法

(1) 調査対象

令和4年6月1日現在、奈良市在住の20歳以上の男女3,000人を無作為に抽出した。

(2) 調査方法

調査票を郵送により配付し、郵送及びインターネットにて回収した。

(3) 調査期間

令和4年7月5日～令和4年8月5日の間に調査を実施した。

(4) 調査項目

調査項目（全11項目）	主な調査内容（副問を除く）
1. 回答者の属性	・ 性別 ・ 年齢 ・ 職業 ・ 居住地域
2. 健康・体力	・ 健康、体力の状態 ・ 健康、体力維持のための心がけ
3. 運動・スポーツ活動の状況	・ 運動、スポーツ活動の頻度 ・ 運動、スポーツ活動の目的、活動しない理由 ・ コロナの影響
4. 運動・スポーツ種目別の活動状況	・ 行った、行いたい、観戦したい運動やスポーツ
5. 公共スポーツ施設	・ 満足度 ・ 施設に対するニーズ ・ スポーツ施設の整備に対するニーズ
6. クラブや同好会、教室	・ 加入状況 ・ クラブ等に対するニーズ
7. スポーツ行事及び団体	・ 市内の行事、団体の認知度
8. スポーツチーム	・ スポーツチームの認知度 ・ 観戦経験
9. スポーツ振興施策	・ 施策ニーズ ・ 障がい者スポーツに係る施策ニーズ
10. 子どもの体力	・ 体力向上のための施策ニーズ
11. 運動・スポーツに関する情報	・ 情報ニーズ ・ 情報入手の方法とニーズ

3. 回収状況

配付数	回収数	回収率	うち郵送	うちインターネット
3,000	1,055	35.2%	858	197

※集計のみかた

①比率は全て、各設問の集計対象者数に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は100.0%を超える。

②百分比（%）は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを示す。四捨五入の結果、各回答の百分率（%）の合計は、100.0%に一致しない場合がある。

③図表中の「n」とは集計対象者総数（あるいは、分類別の該当対象者数）を示し、比率は「n」を100.0%として算出した。

④回答者数（n）が少ない場合は、統計的に誤差が大きくなり、厳密な比較をすることが難しいため、おおよその回答の傾向をみることとした。

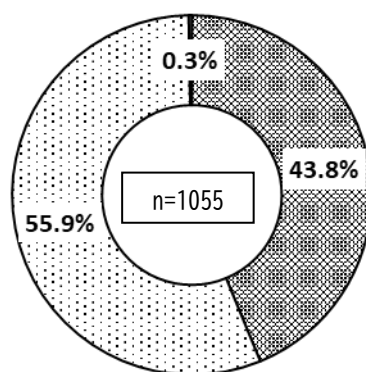
調 査 票

1. 回答者属性 ～ あなた自身のことについてお尋ねします。

問1 あなたの性別は。(1つだけ○をつけてください。)

「男性」が43.8%、「女性」が55.9%と女性がやや多くなっている。(図表 1-1)

図表 1-1 性別

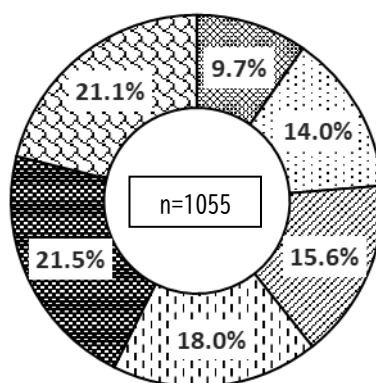


■ 男 ■ 女 ■ 不明

問2 あなたの年齢は。(1つだけ○をつけてください。)

「60 歳代」が 21.5%と最も多く、「70 歳以上」21.1%とこれに続いている。一方で、「20 歳代」が 9.7%、「30 歳代」が 14.0%と、若い年齢層ほど少なく、高齢者層ほど多くなっている。(図表 2-1)

図表 2-1 年齢



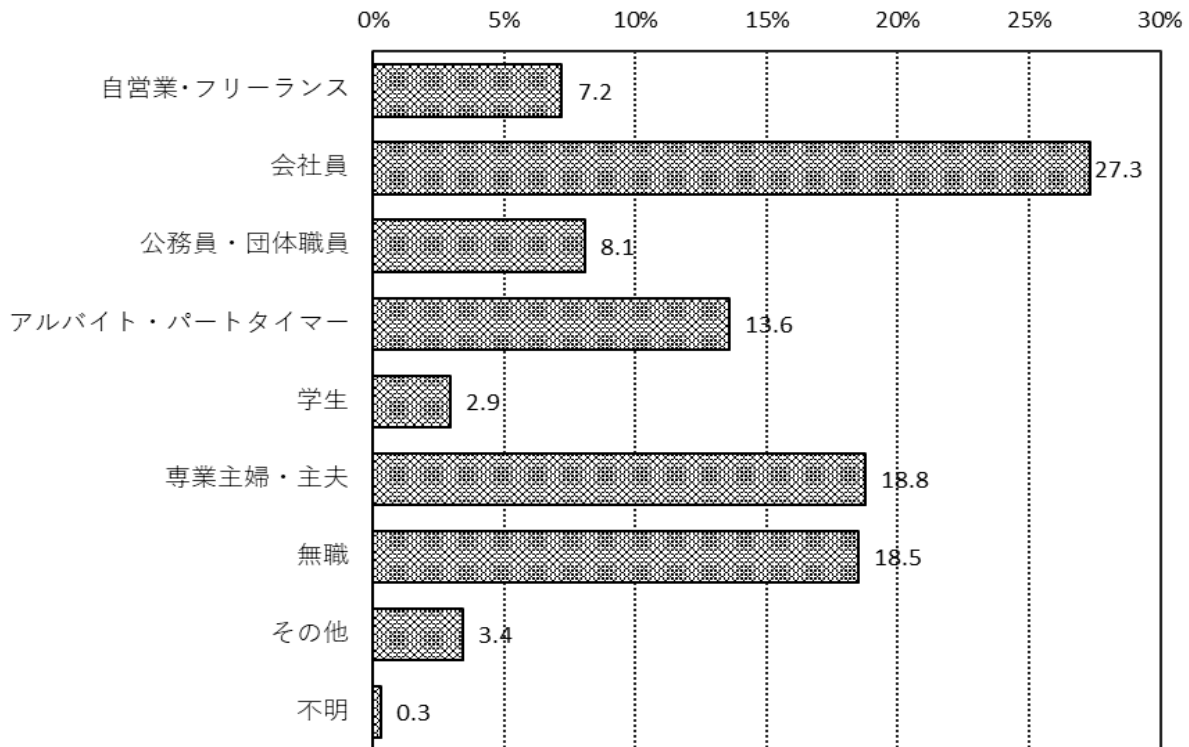
■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

問3 現在のあなたの職業は。(1つだけ○をつけてください。)

「会社員」が27.3%と最も多く、「専業主婦・主夫」が18.8%、「無職」が18.5%とこれに続いている。(図表3-1)

図表3-1 職業

n=1055

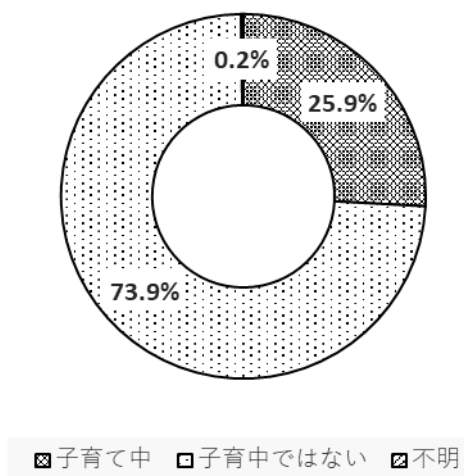


問4 現在のあなたの子育ての状況は。(1つだけ○をつけてください。)

「子育て中ではない」が73.9%、「子育て中」が25.9%となっている。(図表4-1)

図表4-1 子育て

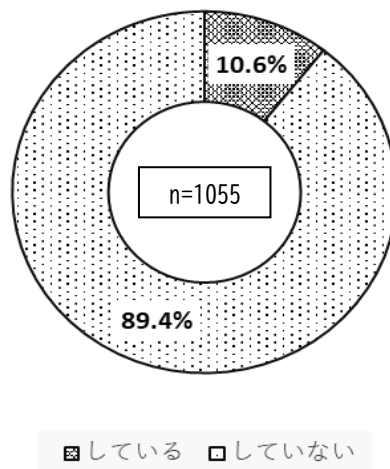
n=1055



問5 現在のあなたの介護等の状況は。(1つだけ○をつけてください。)

「介護等をしていない」が89.4%、「介護等をしている」が10.6%となっている(図表5-1)

図表5-1 介護等

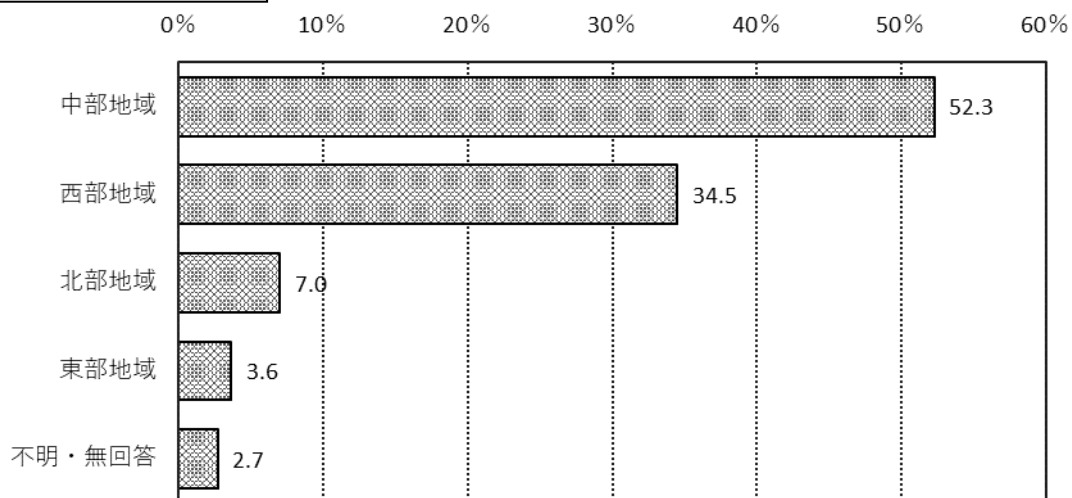


問6 あなたのお住まいは。(1つだけ○をつけてください。)

「中部地域」が52.3%と最も多く、全体の半数以上を占めており、「西部地域」が34.5%とこれに続いている(図表6-1)

図表6-1 居住地域

n=1055

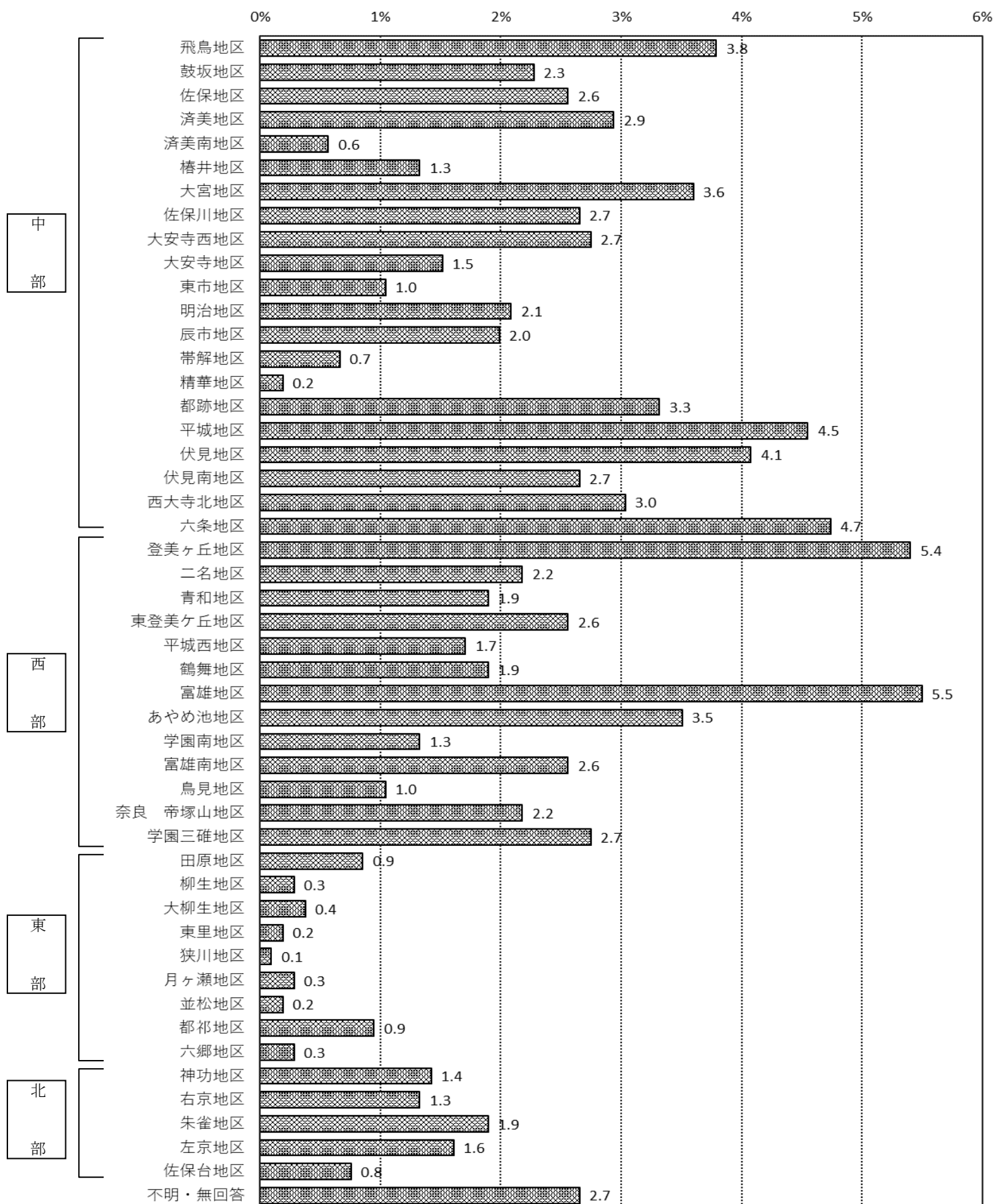


※地域区分は下表の通りである。

中部地域	飛鳥、鼓阪、佐保、済美、済美南、椿井、大宮、佐保川、大安寺西、大安寺、東市、明治、辰市、帯解、精華、都跡、平城、伏見、伏見南、西大寺北、六条
西部地域	登美ヶ丘、二名、青和、東登美ヶ丘、平城西、鶴舞、富雄、あやめ池、学園南、鳥見、奈良帝塚山、学園三碓
北部地域	神功、右京、朱雀、左京、佐保台
東部地域	田原、柳生、大柳生、東里、狭川、月ヶ瀬、並松、吐山、都祁、六郷

図表 6-2 居住地域

n=1055



2. 健康・体力 ～ あなたの健康や体力についてお尋ねします。

問7 あなたは、ご自身の健康状態をどのように感じていますか。（1つだけ○をつけてください。）

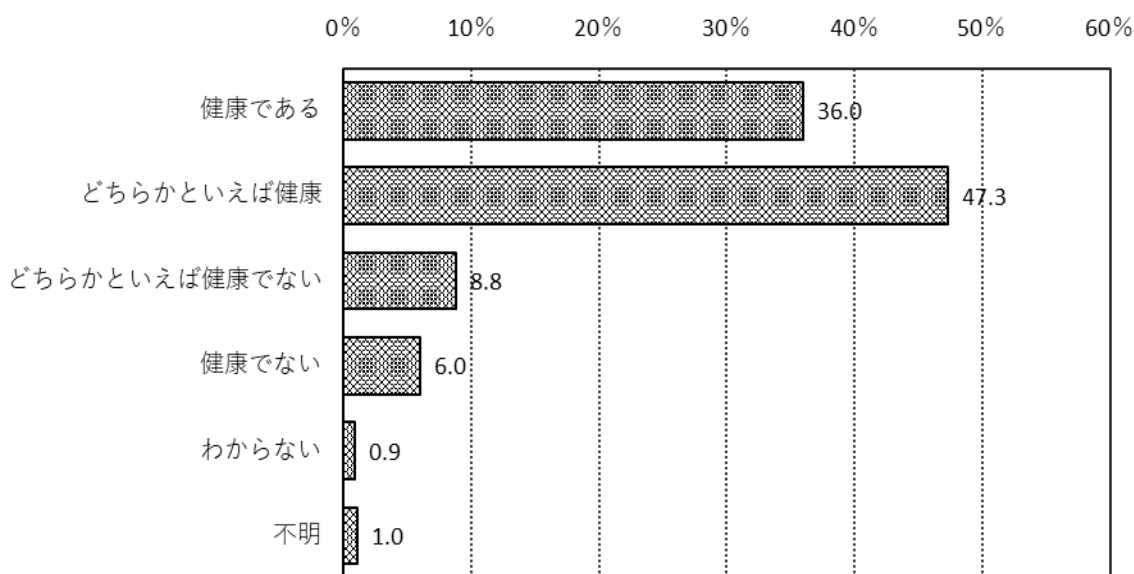
「どちらかといえば健康」が47.3%と最も多く、「健康である」が36.0%とこれに続いている。一方、「どちらかといえば健康でない」及び「健康でない」を合わせると14.8%となる。（図表7-1）

これを性別に見ると、「健康である」、「どちらかといえば健康」を合わせた割合と、「健康でない」、「どちらかといえば健康でない」を合わせた割合それぞれの性別での差は見られなかった。（図表7-2）

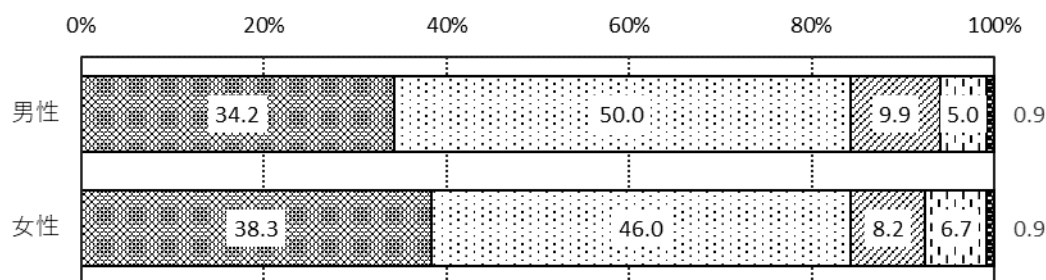
これを年齢別に見ると、「健康である」の割合が20歳代は72.3%となっているが、30歳代が42.6%、40歳代が49.4%と30歳代より40歳代の方が割合が多くなっている。（図表7-3）

図表 7-1 自身の健康状態の感じ方

n=1055

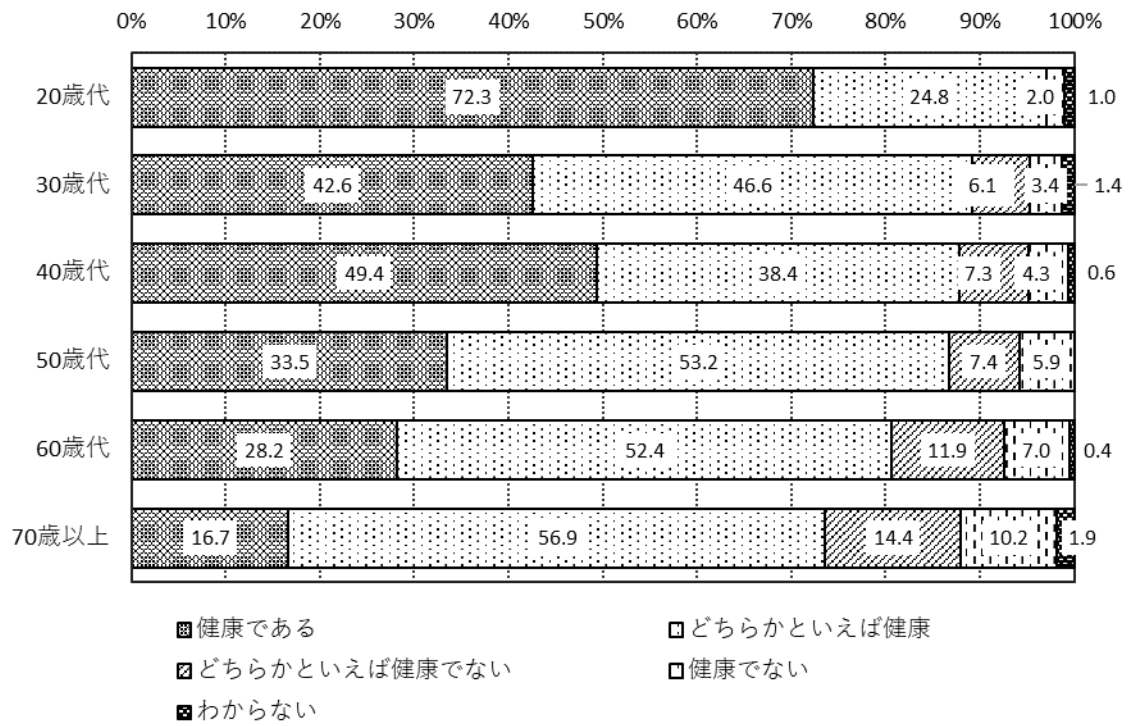


図表 7-2 自身の健康状態の感じ方（性別）



健康である
 どちらかといえば健康
 どちらかといえば健康でない
 健康でない
 わからない

図表 7-3 自身の健康状態の感じ方（年齢別）



問8 あなたは、ご自身の体力についてどのように思いますか。（1つだけ○をつけてください。）

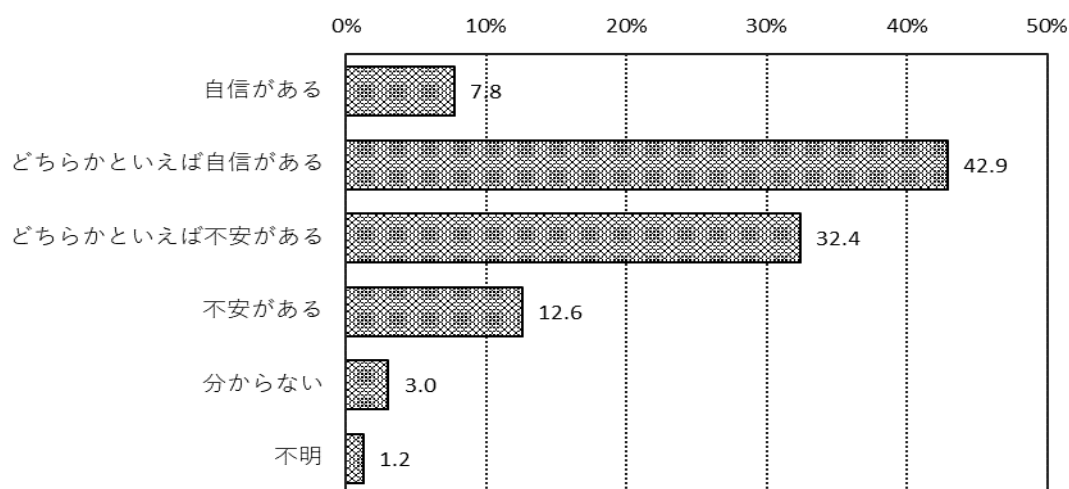
「どちらかといえば自信がある」が42.9%と最も多く、「自信がある」の7.8%を合わせて50.7%となっている。一方、「どちらかといえば不安がある」の32.4%と「不安がある」の12.6%を合わせると45.0%となり、「自信がある」割合が「不安がある」割合をやや上回っている。（図表8-1）

これを性別にみると「男性」で「自信がある」と「どちらかといえば自信がある」とを合わせて59.3%であり、「女性」（45.2%）に比べて体力に自信がある割合が多くなっている（図表8-2）

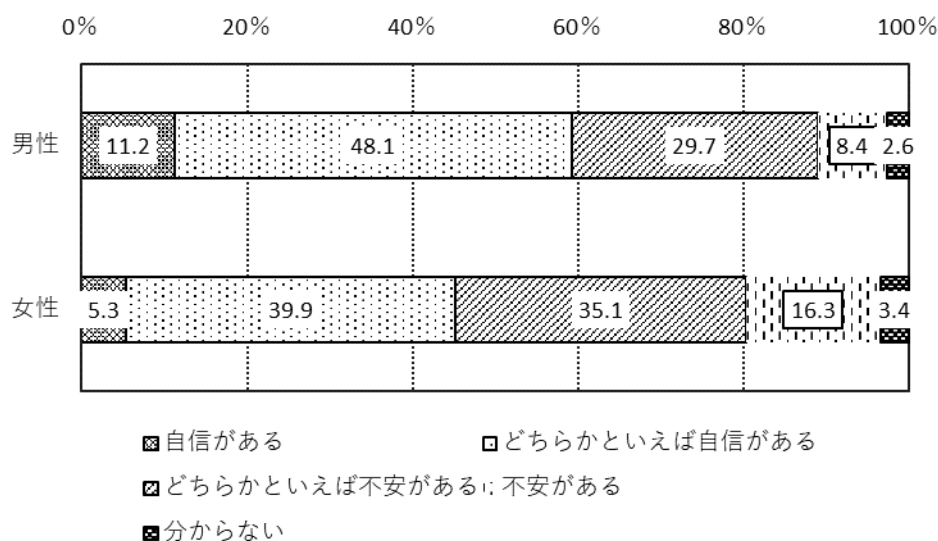
また年齢別に見ると「20歳代」で「自信がある・どちらかといえば自信がある」と答えた人は59.4%であり他の年齢層に比べ多いのに対し、「70歳以上」では40.5%と他の年齢層に比べて少なくなっている（図表8-3）

図表8-1 自信の体力の感じ方

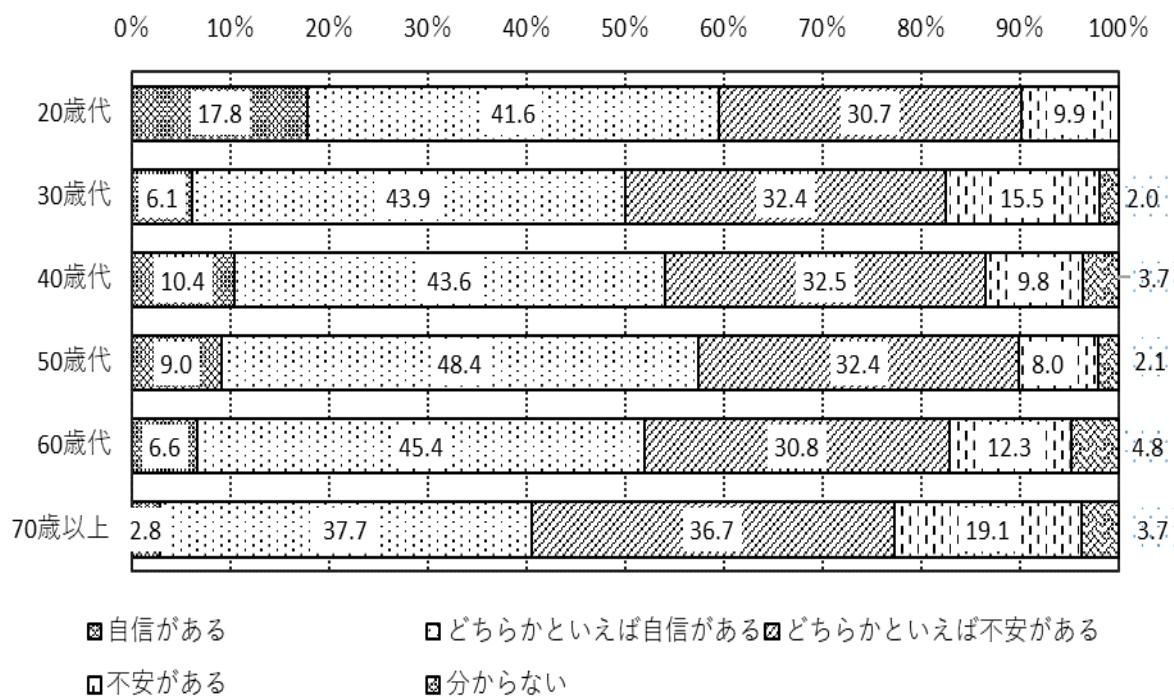
n=1055



図表8-2 自信の体力の感じ方（性別）



図表 8-3 自信の体力の感じ方（年齢別）



問9 あなたは普段運動不足を感じますか。(1 つだけ○をつけてください。)

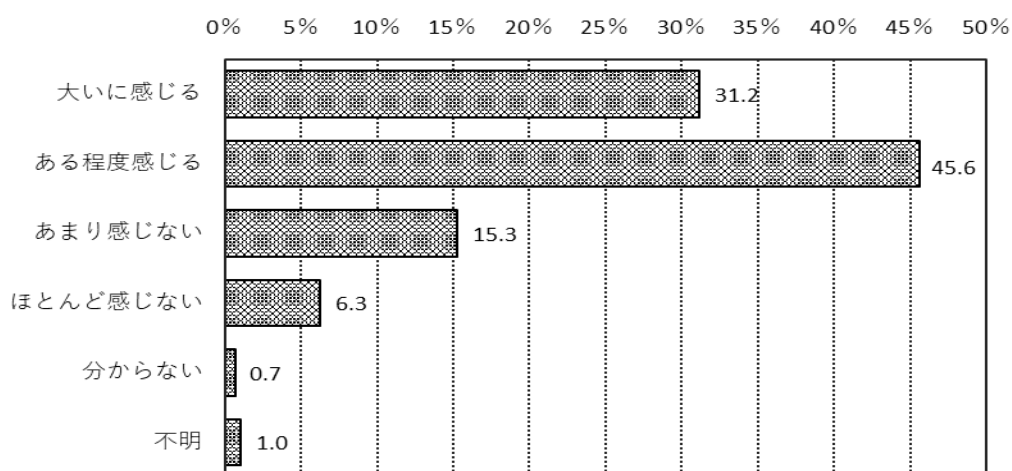
「ある程度感じる」が45.6%と最も多く、次いで「大いに感じる」が31.2%となっており、合わせて76.8%を占めている。一方、「あまり感じない」の15.3%と「ほとんど感じない」の6.3%を合わせると21.6%となる。(図表9-1)

これを性別に見ると、「女性」で「大いに感じる」と「ある程度感じる」とを合わせて81.4%であり、「男性」(72.6%)に比べて運動不足を感じる回答がやや多くなっている。(図表9-2)

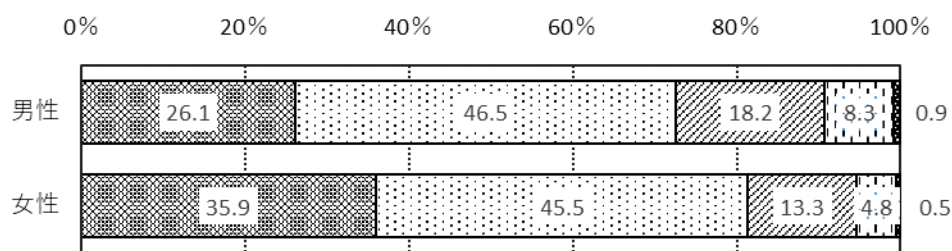
これを年齢別に見ると、「大いに感じる」と「ある程度感じる」と合わせて割合は、「30歳代」で83.7%と最も多く、「20歳代」で81.2%とこれに続いており、他の年齢層に比べてこれらの年齢層では運動不足を感じる回答が多くなっている(図表9-3)

図表9-1 運動不足の感じ方

n=1055

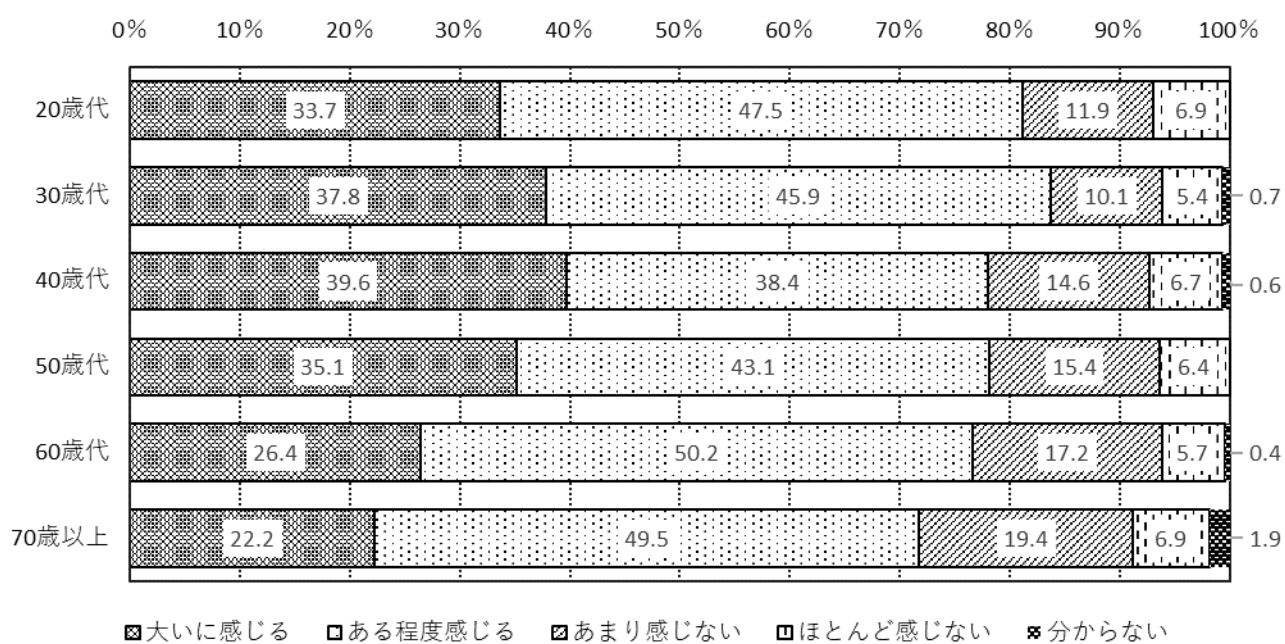


図表9-2 運動不足の感じ方(性別)



■ 大いに感じる ■ ある程度感じる ■ あまり感じない ■ ほとんど感じない ■ 分からない

図表 9-3 運動不足の感じ方（年齢別）



問 10 あなたが健康や体力について心がけていることは何ですか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

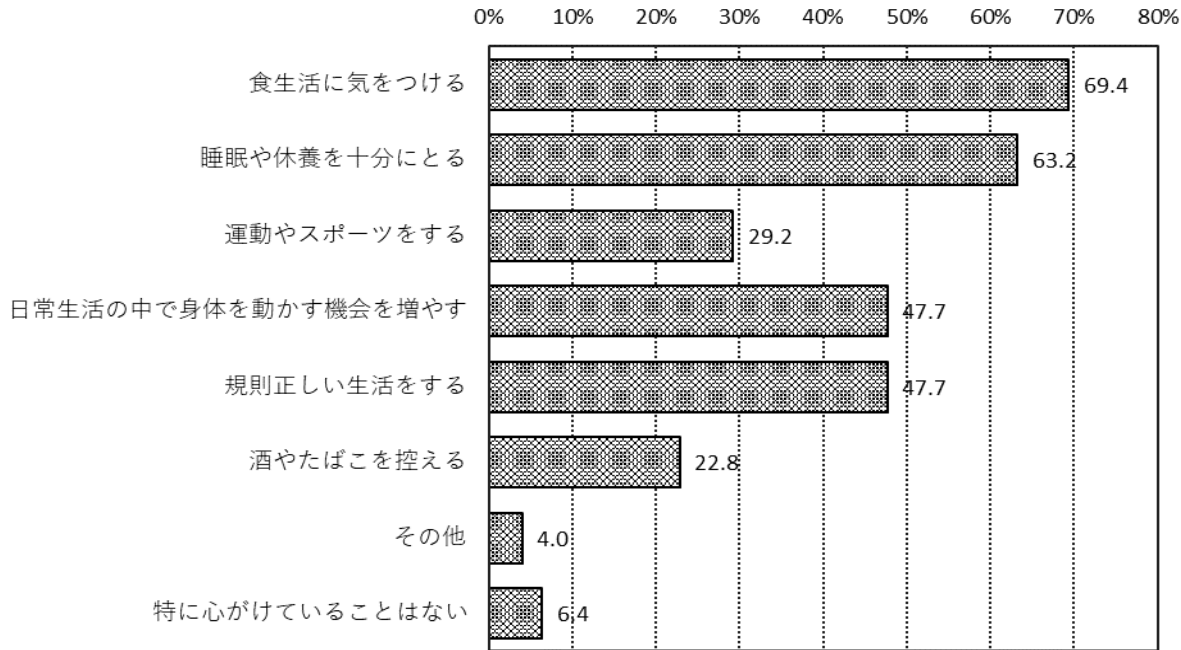
「食生活に気をつける」が69.4%と最も多く、「睡眠や休養を十分にとる」が63.2%、「日常生活の中で体を動かす機会を増やす」「規則正しい生活をする」が47.7%と続いている。一方、「運動やスポーツをする」は29.2%であり、第5位となっている。(図表 10-1)

これを性別に見ると、「男性」「女性」共に第1位は「食生活に気をつける」、第2位は「睡眠や休養を十分にとる」となっているが、「男性」では「日常生活の中で身体を動かす機会を増やす」が、「女性」では「規則正しい生活をする」が第3位となっている。(図表 10-2)

これを年齢別に見ると、「40 歳代」以上では「食生活に気をつける」が第1位であるのに対して、「20 歳代」、「30 歳代」では「睡眠や休養を十分にとる」が第1位となっている。また、「運動やスポーツをする」の割合は「20 歳代」(33.3%)で最も多く、「30 歳代」(22.3%)で最も少なくなっている。(図表 10-3)

図表 10-1 健康や体力についての心がけ

n=1055



図表 10-2 健康や体力についての心がけ（性別・上位3位）

	第1位	第2位	第3位
男性	食生活に気をつける	睡眠や休養を十分にとる	日常生活の中で身体を動かす機会を増やす
	62.8%	59.7%	45.5%
女性	食生活に気をつける	睡眠や休養を十分にとる	規則正しい生活をする
	74.6%	66.3%	50.5%

図表 10-3 健康や体力についての心がけ（年齢別・上位3位）

	第1位	第2位	第3位
20 歳代	睡眠や休養を十分にとる	食生活に気をつける	日常生活の中で身体を動かす 機会を増やす
	64.7%	52.9%	46.1%
30 歳代	睡眠や休養を十分にとる	食生活に気をつける	規則正しい生活をする
	63.5%	54.7%	41.2%
40 歳代	食生活に気をつける	睡眠や休養を十分にとる	規則正しい生活をする
	70.9%	64.2%	47.9%
50 歳代	食生活に気をつける	睡眠や休養を十分にとる	日常生活の中で身体を動かす 機会を増やす
	76.3%	60.0%	46.3%
60 歳代	食生活に気をつける	睡眠や休養を十分にとる	日常生活の中で身体を動かす 機会を増やす
	68.3%	59.0%	55.9%
70 歳以上	食生活に気をつける	睡眠や休養を十分にとる	規則正しい生活をする
	78.9%	68.6%	55.2%

3. あなたの運動やスポーツの活動状況についてお尋ねします。

問 11 あなたはこの1年間で、運動やスポーツ（1回当たり30分程度以上）をどのくらいの頻度で行っていますか。（1つだけ○をつけてください。）

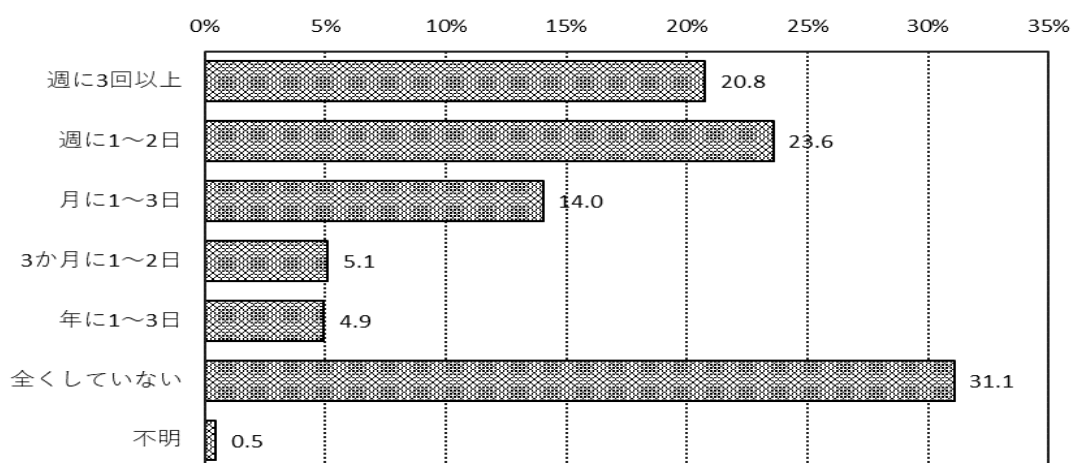
「全くしていない」が31.1%と最も多く、「週に1～2日」が23.6%、「週に3回以上」が20.8%とこれに続いている。（図表 11-1）

これを性別に見ると、「男性」では「女性」よりも「全くしていない」の割合が低く、運動する頻度が高くなっている。（図表 11-2）

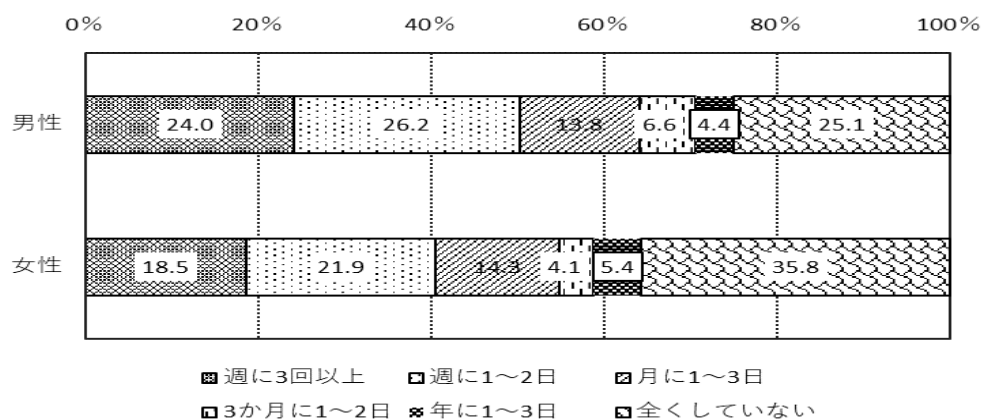
これを年齢別に見ると、「全くしていない」と「年に1～3日」を合わせた割合は「30歳代」（44.0%）で最も多く、「40歳代」（39.4%）、「50歳代」（37.6%）がこれに続いている。また、「週に3回以上」の割合は「70歳以上」（27.1%）で最も多く、「60歳代」（26.5%）がこれに続いている。このように「30歳代」、「40歳代」では運動頻度は低く、「60歳以上」で高くなっている。（図表 11-3）
また、性別・年齢別に見ると、全年代において「男性」では「女性」よりも「全くしていない」の割合が低く、特に「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」ではその差が大きくなっている

図表 11-1 スポーツの頻度

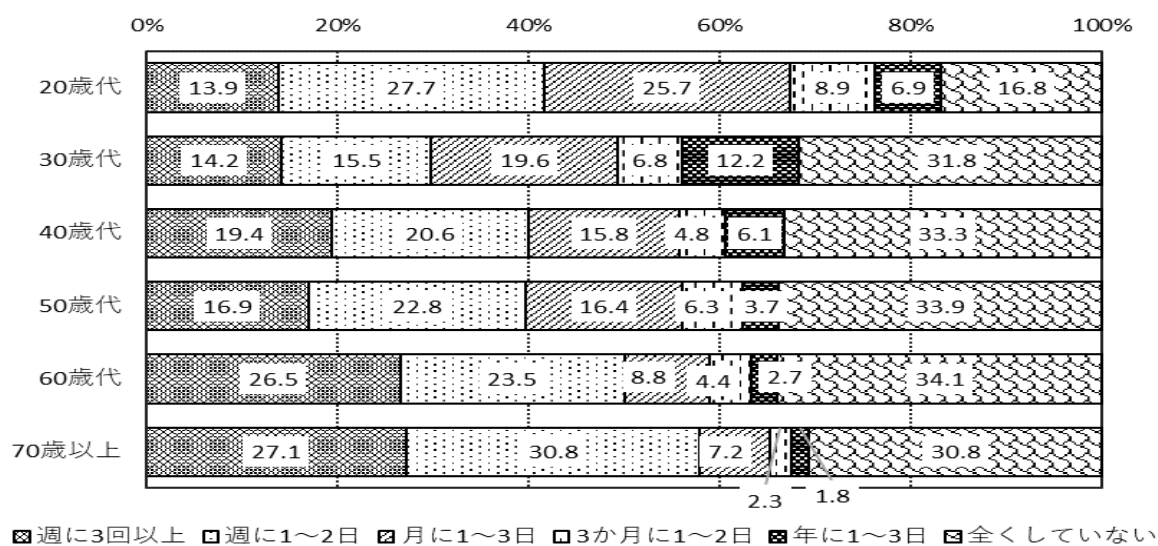
n=1055



図表 11-2 スポーツの頻度（性別）



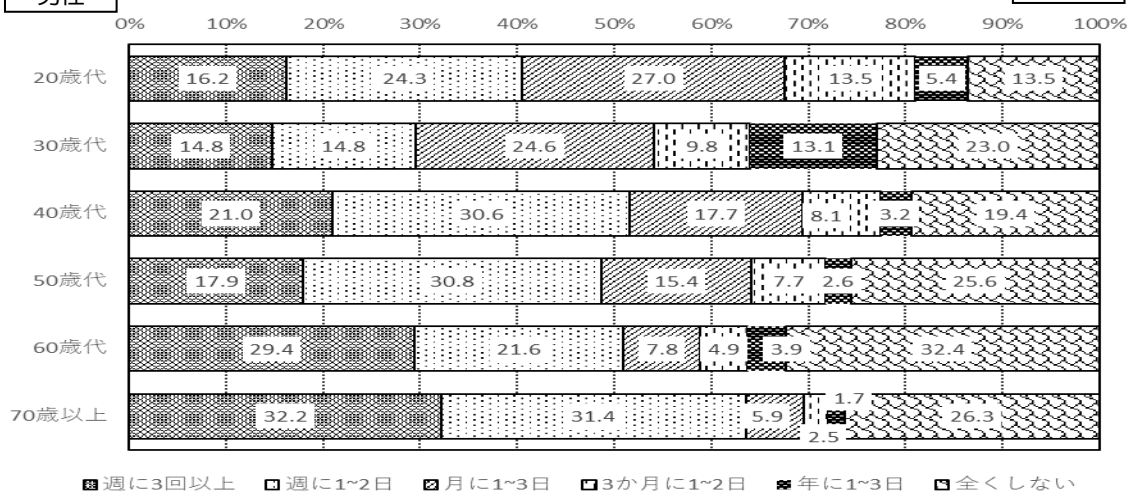
図表 11-3 スポーツの頻度（年齢別）



図表 11-4 スポーツの頻度（性別・年齢別）

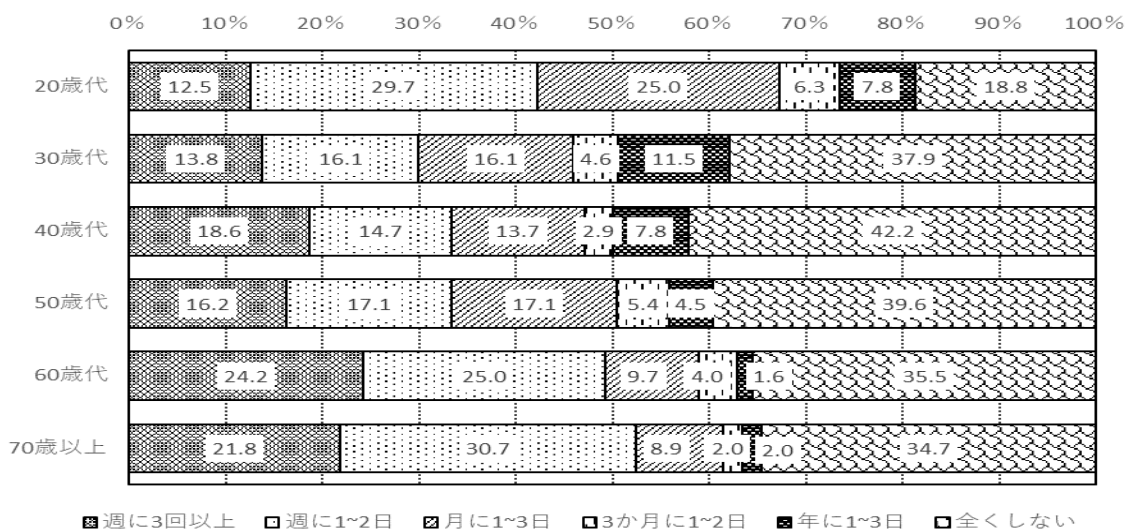
男性

n=458



女性

n=589



【問 11 で「1」～「5」を選ばれた方だけにお尋ねします。】

問 11 - ① あなたが運動やスポーツを行っている目的は何ですか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

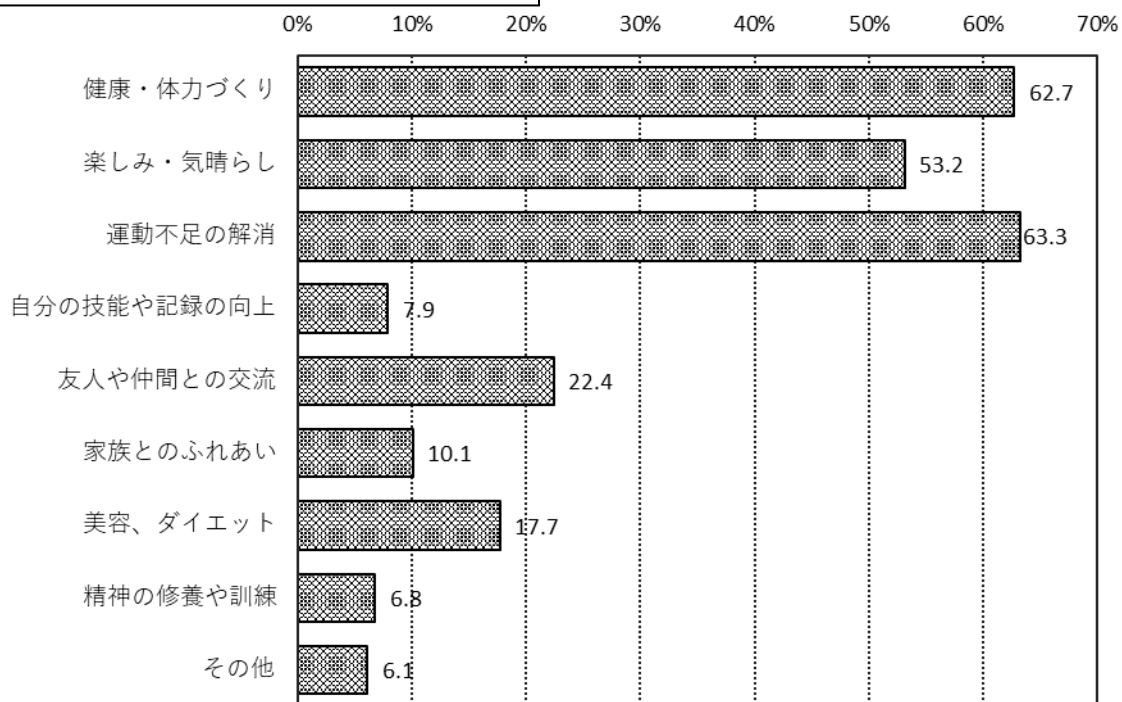
「運動不足の解消」が 63.3%と最も多く、次いで「健康・体力づくり」が 62.7%、「楽しみ・気晴らし」が 53.2%と続いている。（図表 11-4）

これを性別に見ると、「男性」では「健康・体力づくり」（48.1%）が第 1 位であるのに対し、「女性」では「運動不足の解消」（41.4%）が第 1 位となっている。（図表 11-5）

これを年齢別に見ると、「20 歳代」、「30 歳代」、「60 歳代」の年齢層では「運動不足の解消」が第 1 位、「30 歳代」「40 歳代」、「50 歳代」、「70 歳以上」の年齢層では「健康・体力づくり」が第 1 位となっている。また「美容・ダイエット」が「20 歳代」では第 4 位（25.5%）、「30 歳代」では第 3 位（16.2%）となっている点に特徴がある。（図表 11-6）

図表 11-4 運動・スポーツの目的

n=722



図表 11-5 運動・スポーツの目的（性別・上位3位）

	第1位	第2位	第3位
男性	健康・体力づくり	運動不足の解消	楽しみ・気晴らし
	48.1%	46.1%	40.9%
女性	運動不足の解消	健康・体力づくり	楽しみ・気晴らし
	41.4%	39.0%	33.1%

図表 11-6 運動・スポーツの目的（年齢別・上位3位）

	第1位		第2位	第3位
20 歳代	運動不足の解消		楽しみ・気晴らし	健康・体力づくり
	50.0%		47.1%	34.3%
30 歳代	健康・体力づくり	運動不足の解消	楽しみ・気晴らし	美容、ダイエット
	38.5%	38.5%	37.2%	16.2%
40 歳代	健康・体力づくり		運動不足の解消	楽しみ・気晴らし
	39.4%		37.0%	31.5%
50 歳代	健康・体力づくり		運動不足の解消	楽しみ・気晴らし
	43.2%		42.1%	39.5%
60 歳代	運動不足の解消		健康・体力づくり	楽しみ・気晴らし
	44.9%		44.5%	37.0%
70 歳以上	健康・体力づくり		運動不足の解消	楽しみ・気晴らし
	50.7%		47.5%	31.8%

【問 11 で「6」を選ばれた方だけにお尋ねします。】

問 11 - ② 運動やスポーツを行われていない理由は何ですか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

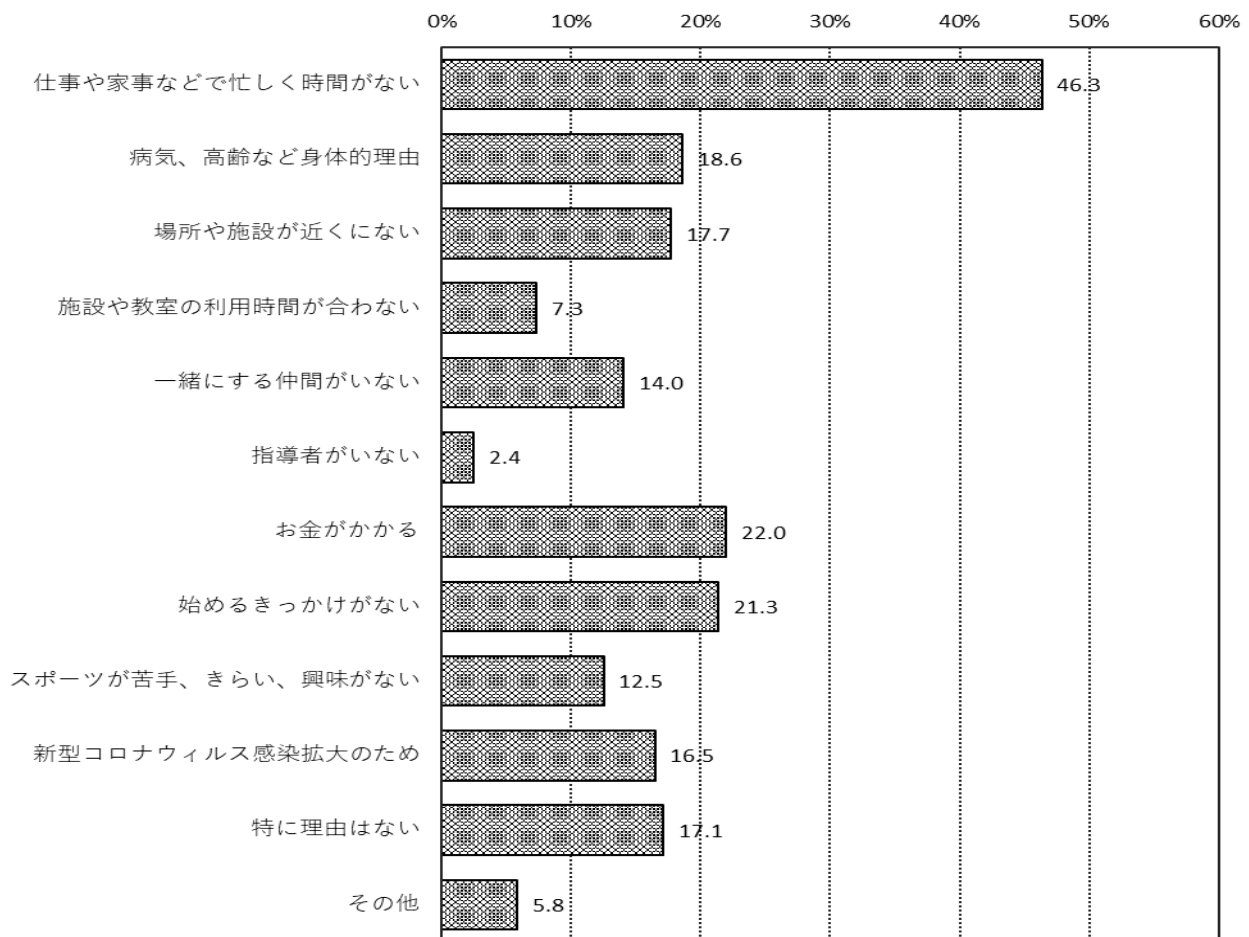
「仕事や家事などで忙しく時間がない」が 46.3%と最も多く、「お金がかかる」が 22.0%、「始めるきっかけがない」が 21.3%とこれに続いている。(図表 11-7)

これを性別に見ると、「男性」「女性」とともに「仕事や家事などで忙しく時間がない」が第 1 位となっているが、「男性」では「特に理由はない」が、「女性」では「お金がかかる」が第 2 位となっている。(図表 11-8)

これを年齢別に見ると、「20 歳代」から「60 歳代」の年齢層では「仕事や家事などで忙しく時間がない」が第 1 位となっているが、「70 歳以上」では「病気・高齢など身体的な理由」が第 1 位となっている。(図表 11-9)

図表 11-7 運動・スポーツを行っていない理由

n=328



図表 11-8 運動・スポーツを行っていない理由（性別・上位3位）

	第1位	第2位	第3位
男性	仕事や家事などで忙しく時間がない	特に理由はない	病気、高齢など身体的な理由
	9.7%	6.1%	5.2%
女性	仕事や家事などで忙しく時間がない	お金がかかる	始めるきっかけがない
	18.8%	10.3%	8.5%

図表 11-9 運動・スポーツを行っていない理由（年齢別・上位3位）

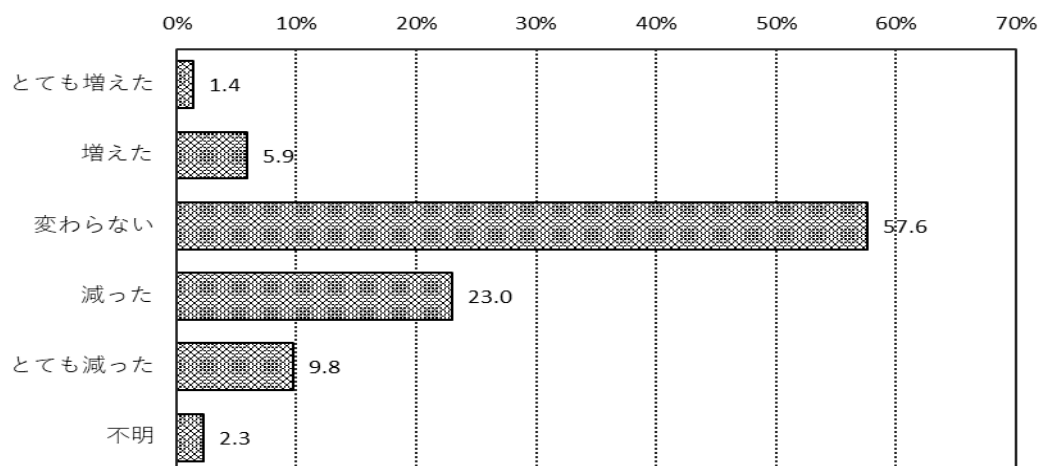
	第1位	第2位	第3位		
20 歳代	仕事や家事などで忙しく時間がない	始めるきっかけがない	スポーツが苦手、きらい、興味がない		
	8.8%	7.8%	5.9%		
30 歳代	仕事や家事などで忙しく時間がない	場所や施設が近くにない	お金がかかる		
	25.0%	10.1%	8.1%		
40 歳代	仕事や家事などで忙しく時間がない	お金がかかる	始めるきっかけがない	場所や施設が近くにない	新型コロナウイルス感染拡大のため
	23.6%	9.7%	9.7%	6.7%	6.7%
50 歳代	仕事や家事などで忙しく時間がない	お金がかかる	始めるきっかけがない		
	19.5%	8.9%	8.4%		
60 歳代	仕事や家事などで忙しく時間がない	お金がかかる	場所や施設が近くにない	始めるきっかけがない	新型コロナウイルス感染拡大のため
	11.5%	8.8%	7.5%	7.5%	7.5%
70 歳以上	病気、高齢など身体的な理由	特に理由はない	その他		
	13.9%	7.6%	4.0%		

問 12 新型コロナウイルス感染拡大以前（2020 年 1 月以前）と比べて、運動やスポーツを行う頻度はどのように変化しましたか。（1 つだけ○をつけてください。）

「変わらない」が 57.6%と最も多く、次いで「減った」が 23.0%、「とても減った」が 9.8%となっている。また「とても増えた」、「増えた」を合わせると 7.3%となっている。（図表 12-1）

図表 12-1 新型コロナウイルス感染拡大後の頻度

n=1055



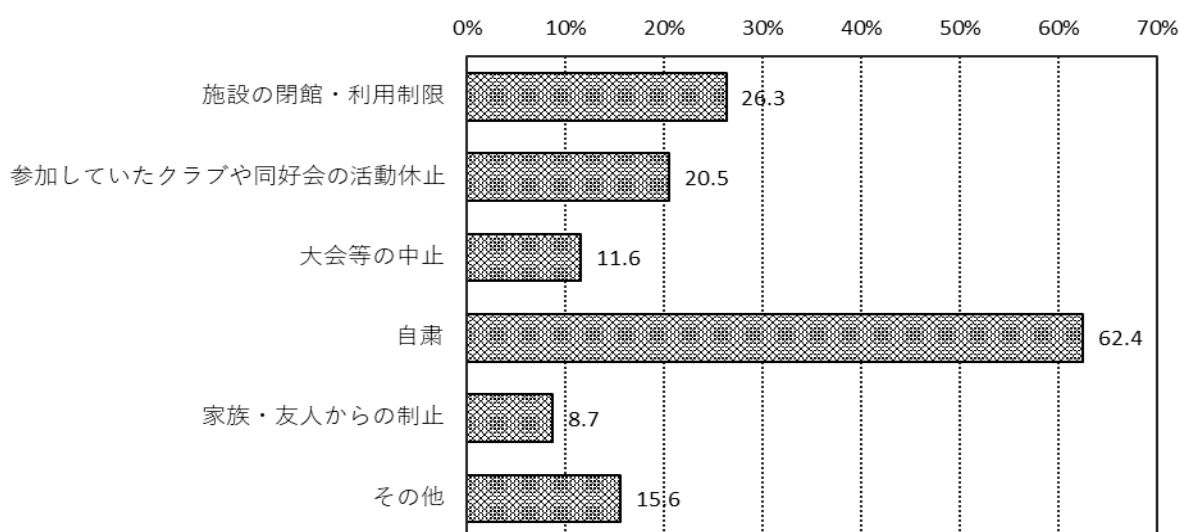
【問 12 で「4. 減った」または「5. とても減った」を選ばれた方だけにお尋ねします。】

問 12 - ① 運動やスポーツを行う頻度が減った原因は何ですか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

「自粛」が 62.4%と最も多く、「施設の閉館・利用制限」が 26.3%、「参加していたクラブや同好会の活動休止」が 20.5%、「大会等の中止」が 11.6%とこれに続いている。（図表 12-2）

図表 12-2 頻度が減少した理由

n=346



4. 運動やスポーツに関する活動状況と希望についてお尋ねします。

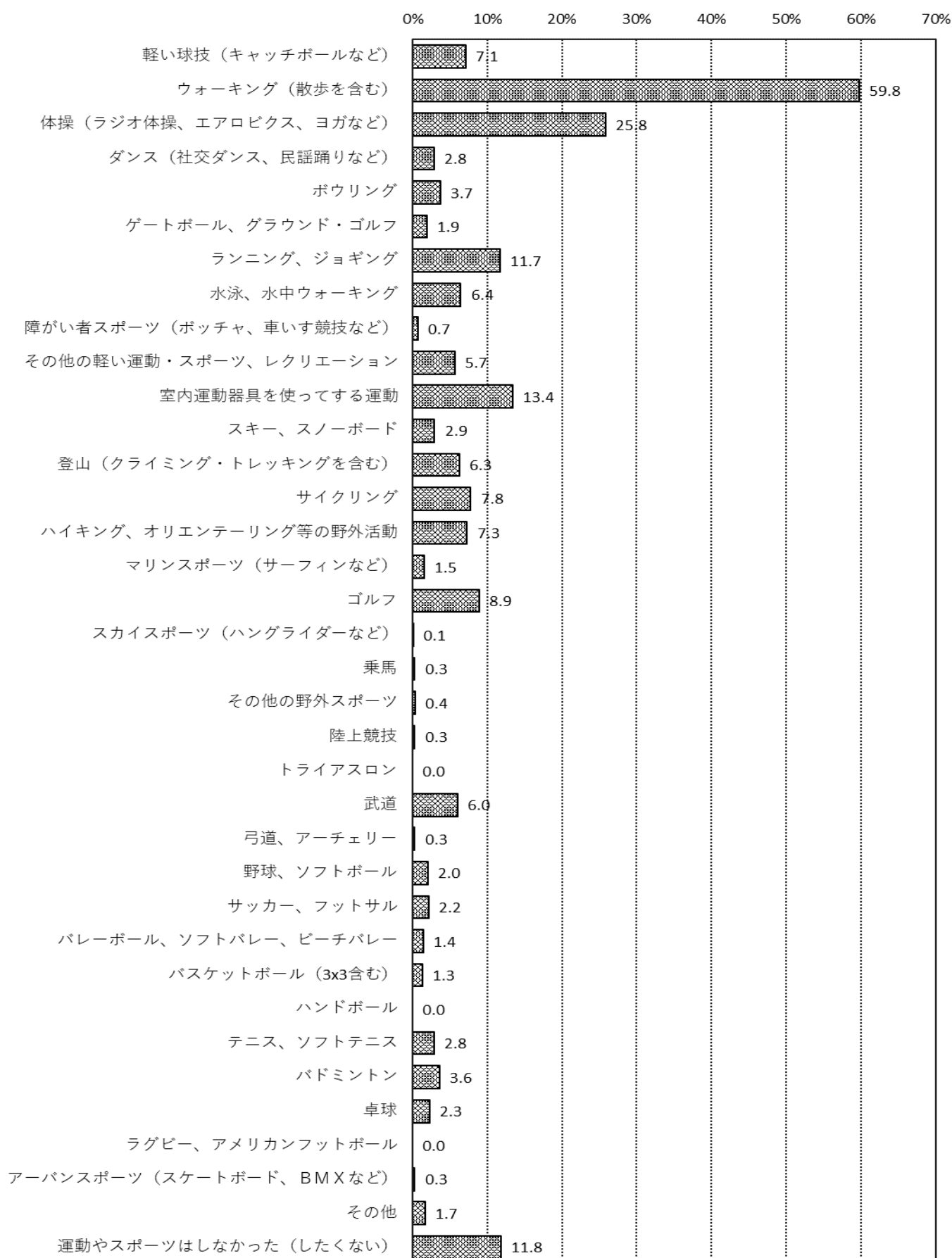
【全ての方にお尋ねします。】

問 13 - ① あなたはこの 1 年間にどのような運動やスポーツを行いましたか。

「ウォーキング（散歩を含む）」が 59.8%と最も多く、「体操（ラジオ体操、エアロビクス、ヨガなど）」が 25.8%、「室内運動器具を使ってする運動」が 13.4%、「ランニング、ジョギング」が 11.7%となっている。一方で「運動やスポーツはしなかった（したくない）」が 11.8%となっている。（図表 13-1）

図表 13-1 この1年間に行った運動やスポーツ

n=1055

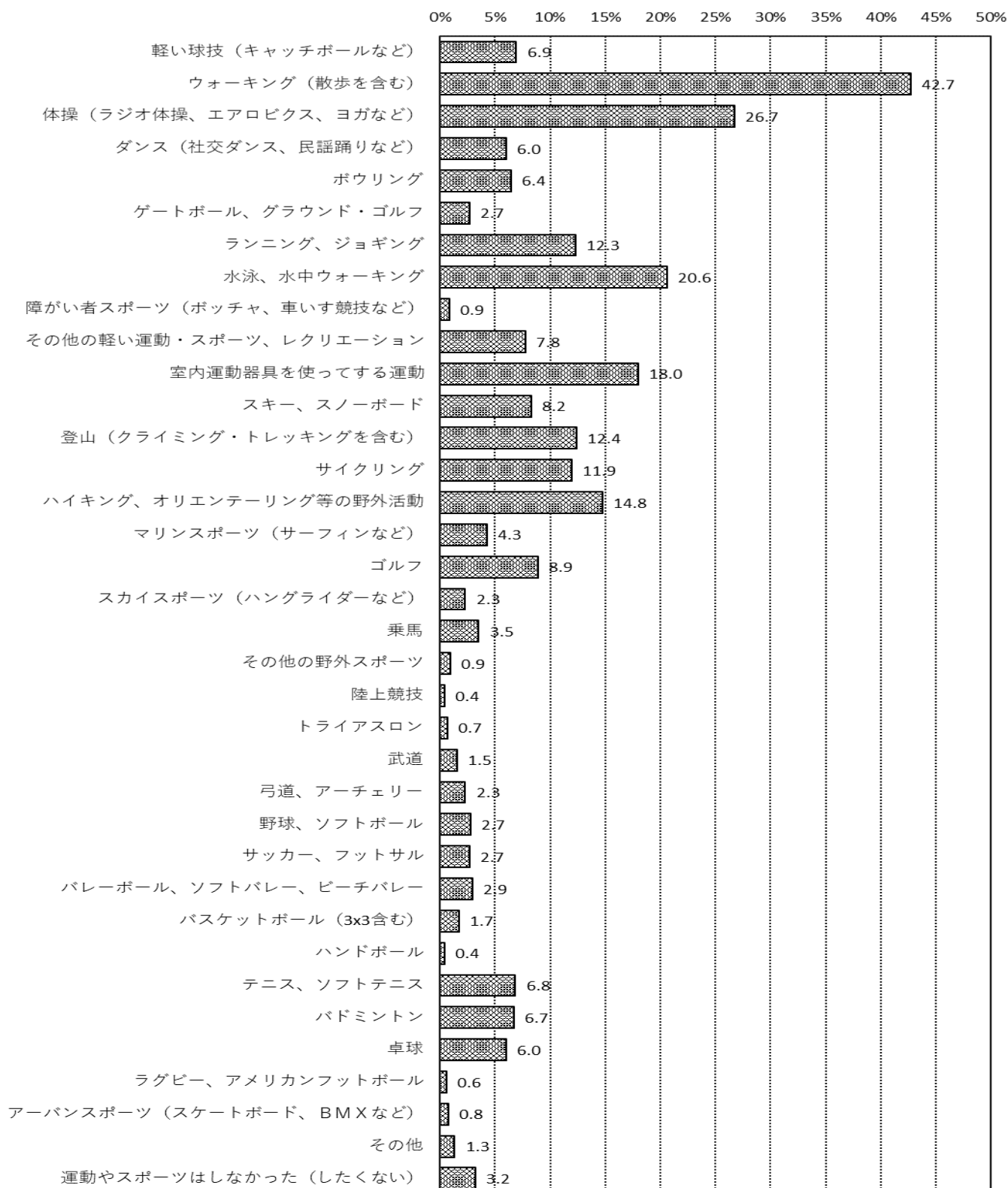


② 今後、あなたが新たに、あるいは継続して行いたい運動やスポーツは何ですか。

「ウォーキング（散歩を含む）」が42.7%と最も多く、「体操（ラジオ体操、エアロビクス、ヨガなど）」が26.7%、「水泳、水中ウォーキング」が20.6%、「室内運動器具を使ってする運動」が18.0%、「ハイキング、オリエンテーリング等の野外活動」が14.8%となっている。（図表 13-2）

図表 13-2 今後行いたい運動やスポーツ

n=1055

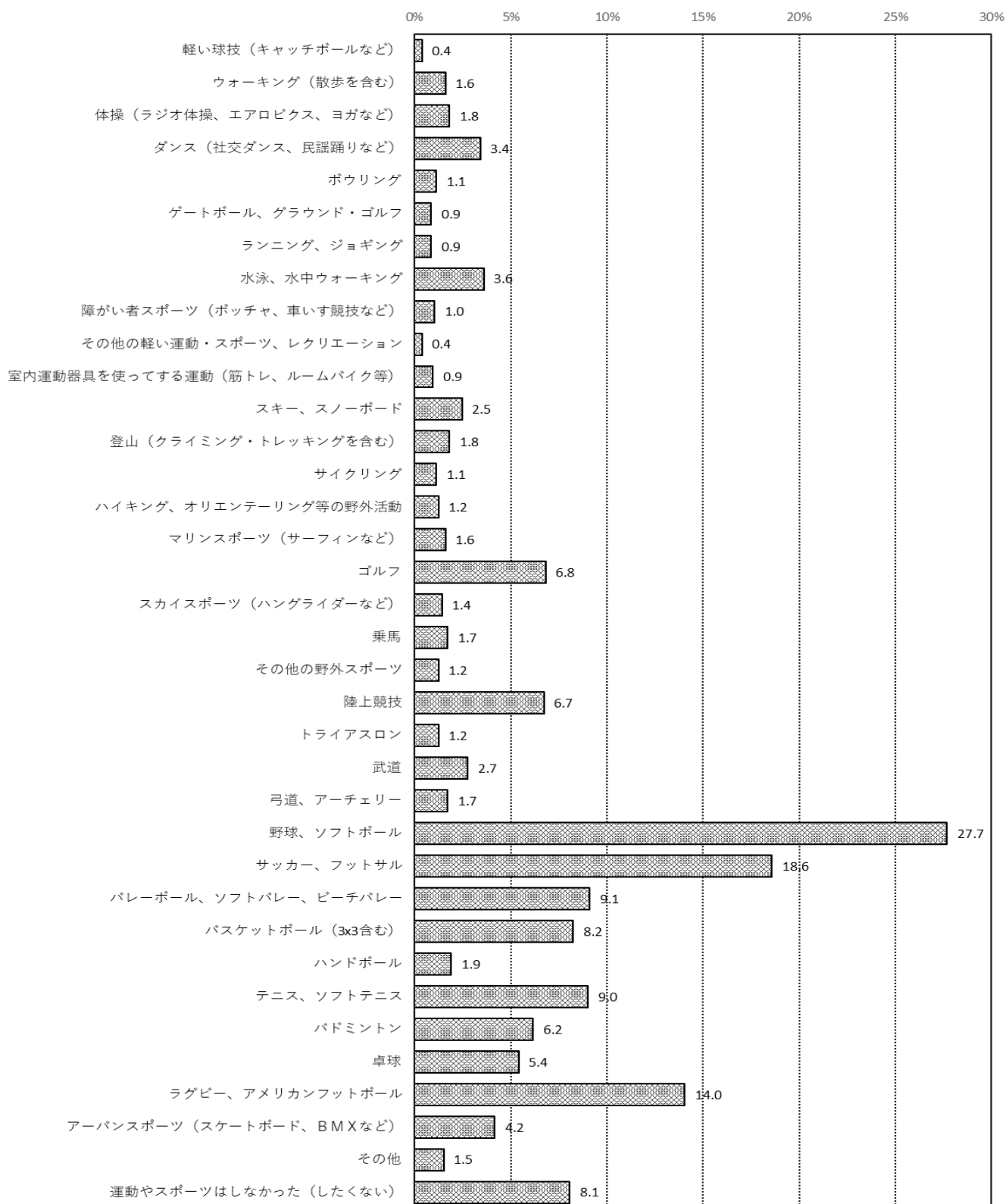


③ 今後、あなたが競技場などで観戦したい運動やスポーツは何ですか。

「野球、ソフトボール」が27.7%と最も多く、「サッカー、フットサル」が18.6%、「ラグビー、アメリカンフットボール」が14.0%、「バレーボール、ソフトバレー、ビーチバレー」が9.1%、「テニス、ソフトテニス」が9.0%となっている。（図表 13-3）

図表 13-3 今後観戦したい運動やスポーツ

n=1055



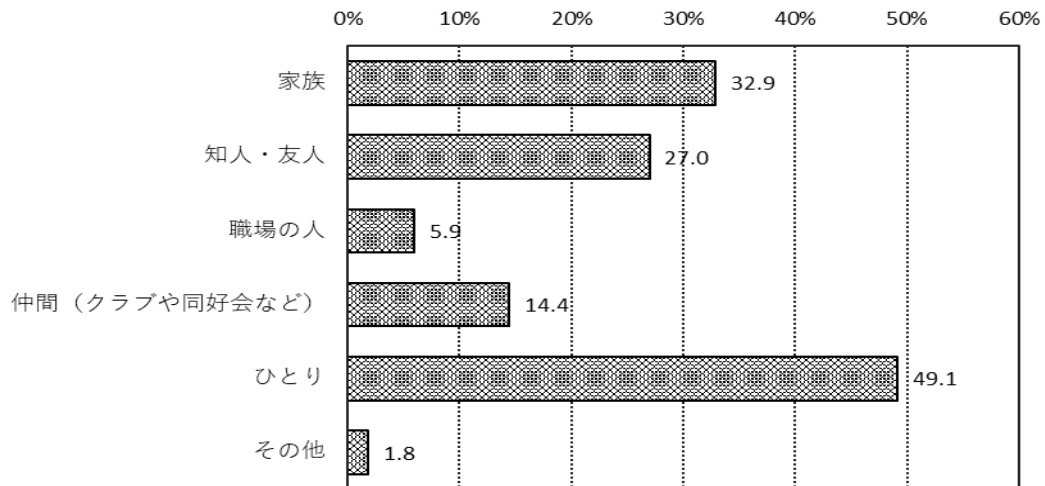
【問 13-①で「1」～「35」を選ばれた方だけにお尋ねします。】

問 14 どなたと行いましたか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

「ひとり」が49.1%と最も多く、次いで「家族」が32.9%、「知人・友人」が27.0%、「仲間（クラブや同好会など）」が14.4%、「職場の人」が5.9%となっている。（図表 14-1）

図表 14-1 運動・スポーツを行った相手

n=930



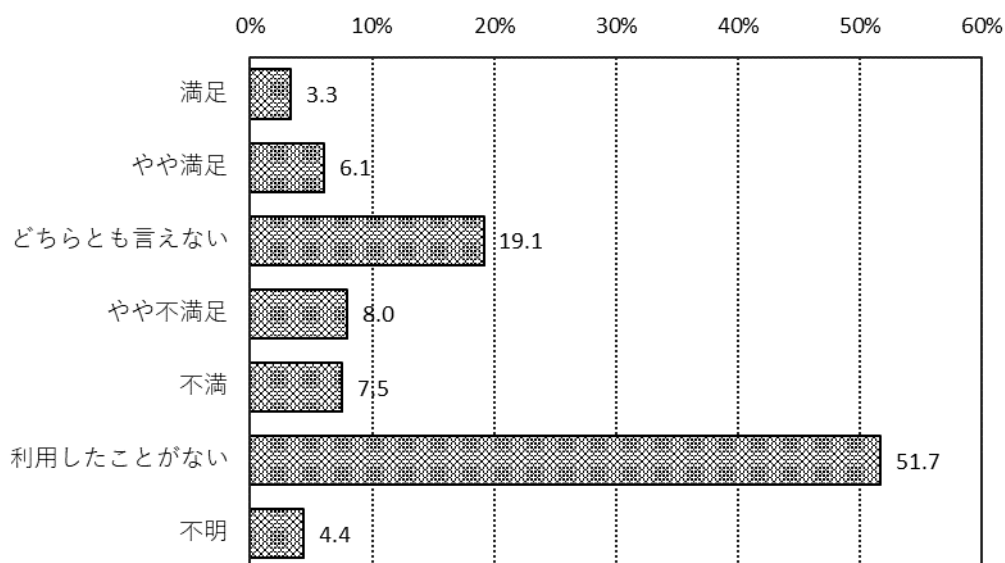
5. 奈良市にある公共のスポーツ施設についてお尋ねします。

問 15 あなたは、奈良市内にある公共スポーツ施設について満足していますか。（1つだけ○をつけてください。）

「利用したことがない」が51.7%と最も多く、「どちらとも言えない」が19.1%とこれに続いている。また、「満足」「やや満足」を合わせて9.4%であるのに対し、「やや不満」「不満」を合わせて15.5%であり、施設を利用したことがある回答者の公共スポーツ施設に対する満足度は低いと考えられる。（図表 15-1）

図表 15-1 公共スポーツ施設への満足度

n=1055



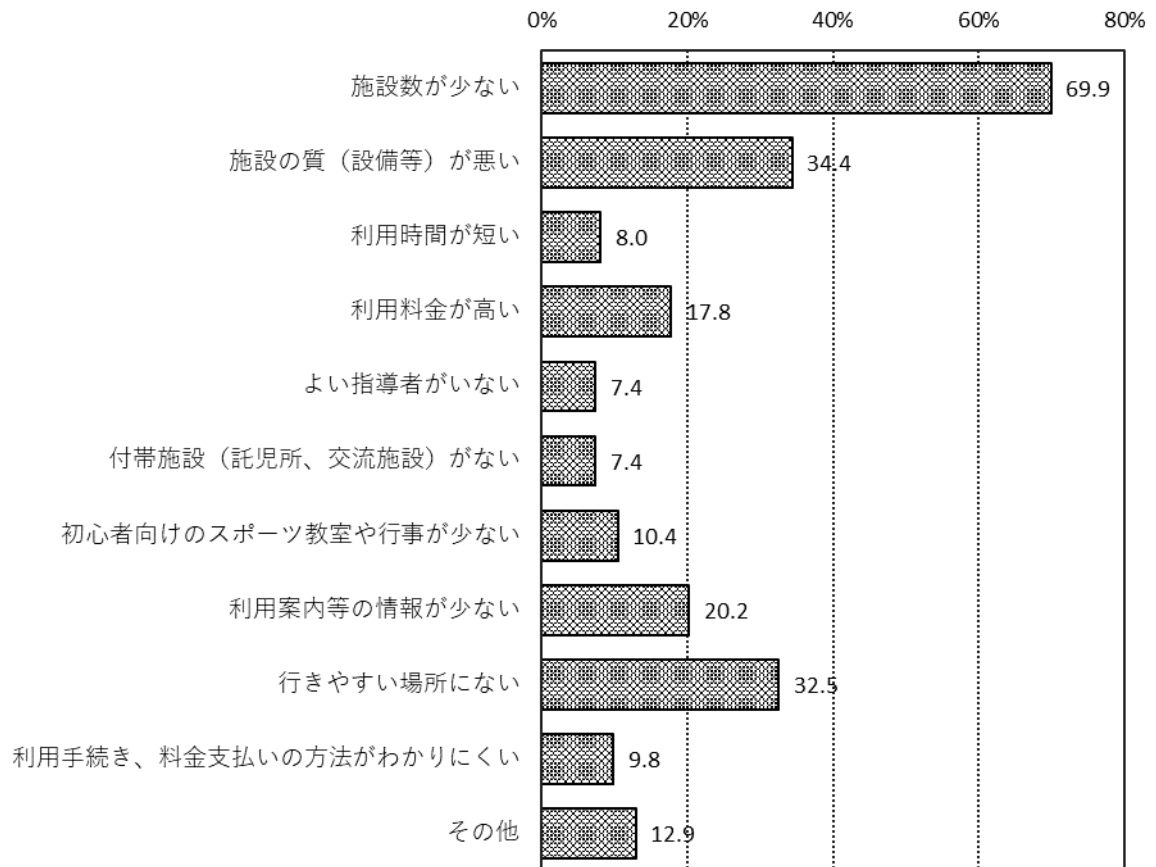
【問 15 で「4」、「5」を選ばれた方だけにお尋ねします。】

問 15-① あなたはどのような点に不満を感じていますか。（2つまで○をつけてください。）

「施設数が少ない」が69.9%と最も多く、「施設の質（設備等）が悪い」が34.4%、「行きやすい場所がない」が32.5%、「利用案内等の情報が少ない」が20.2%となっている。（図表 15-2）

図表 15-2 不満を感じる点

n=163



【全ての方にお尋ねします。】

問 16 あなたは、奈良市内の公共スポーツ施設に対してどのようなことを望まれますか。（2つまで○をつけてください。）

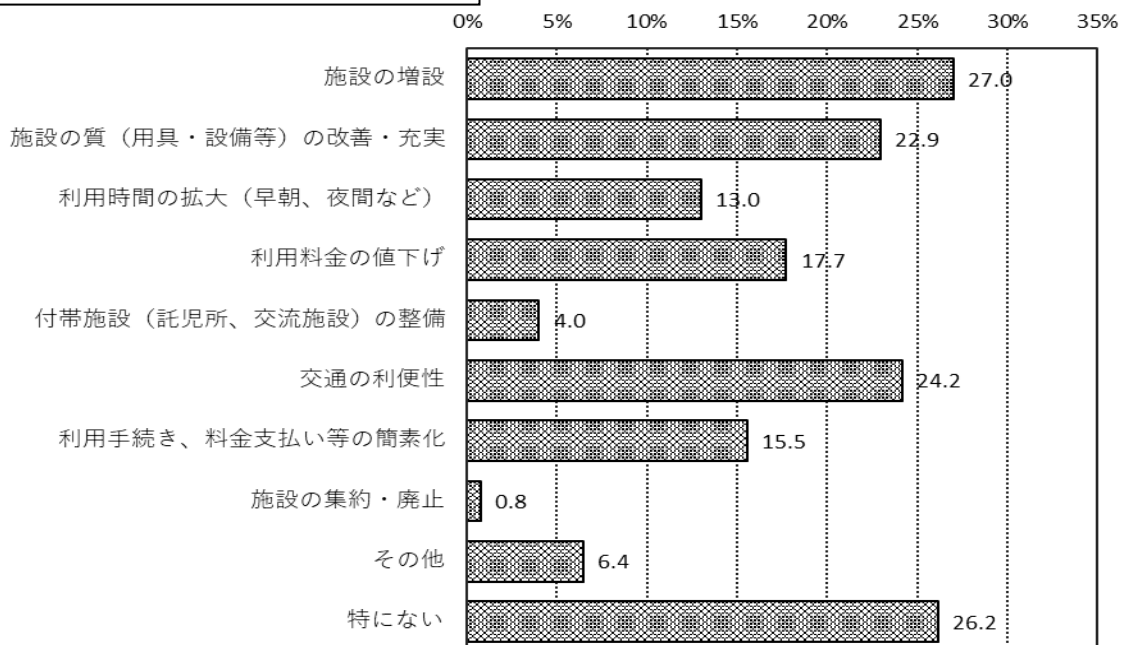
「施設の増設」が 27.0%と最も多く、「特にない」が 26.2%、「交通の利便性」が 24.2%、「施設の質（用具・設備等）の改善・充実」が 22.9%、「利用料金の値下げ」が 17.7%となっている。（図表 16-1）

これを性別に見ると、「男性」では「特にない」が 31.0%と最も多く、「施設の増設」が 27.1%、「施設の質の改善・充実」が 23.4%とこれに続いている。「女性」では「交通の利便性」が 31.4%と最も多く、「施設の増設」が 26.9%、「施設の質の改善・充実」が 22.7%とこれに続いている。（図表 16-2）

これを年齢別に見ると、「20 歳代」、「40 歳代」及び「50 歳代」では「施設の増設」が、「30 歳代」で「施設の質の改善・充実」が、「60 歳代」で「交通の利便性」が、「70 歳以上」で「特にない」がそれぞれ最も多くなっている。（図表 16-3）

図表 16-1 公共スポーツ施設への要望

n=1055



図表 16-2 公共スポーツ施設への要望（性別・上位3位）

	第1位	第2位	第3位
男性	特にない	施設の増設	施設の質の改善・充実
	31.0%	27.1%	23.4%
女性	交通の利便性	施設の増設	施設の質の改善・充実
	31.4%	26.9%	22.7%

図表 16-3 公共スポーツ施設への要望（年齢別・上位3位）

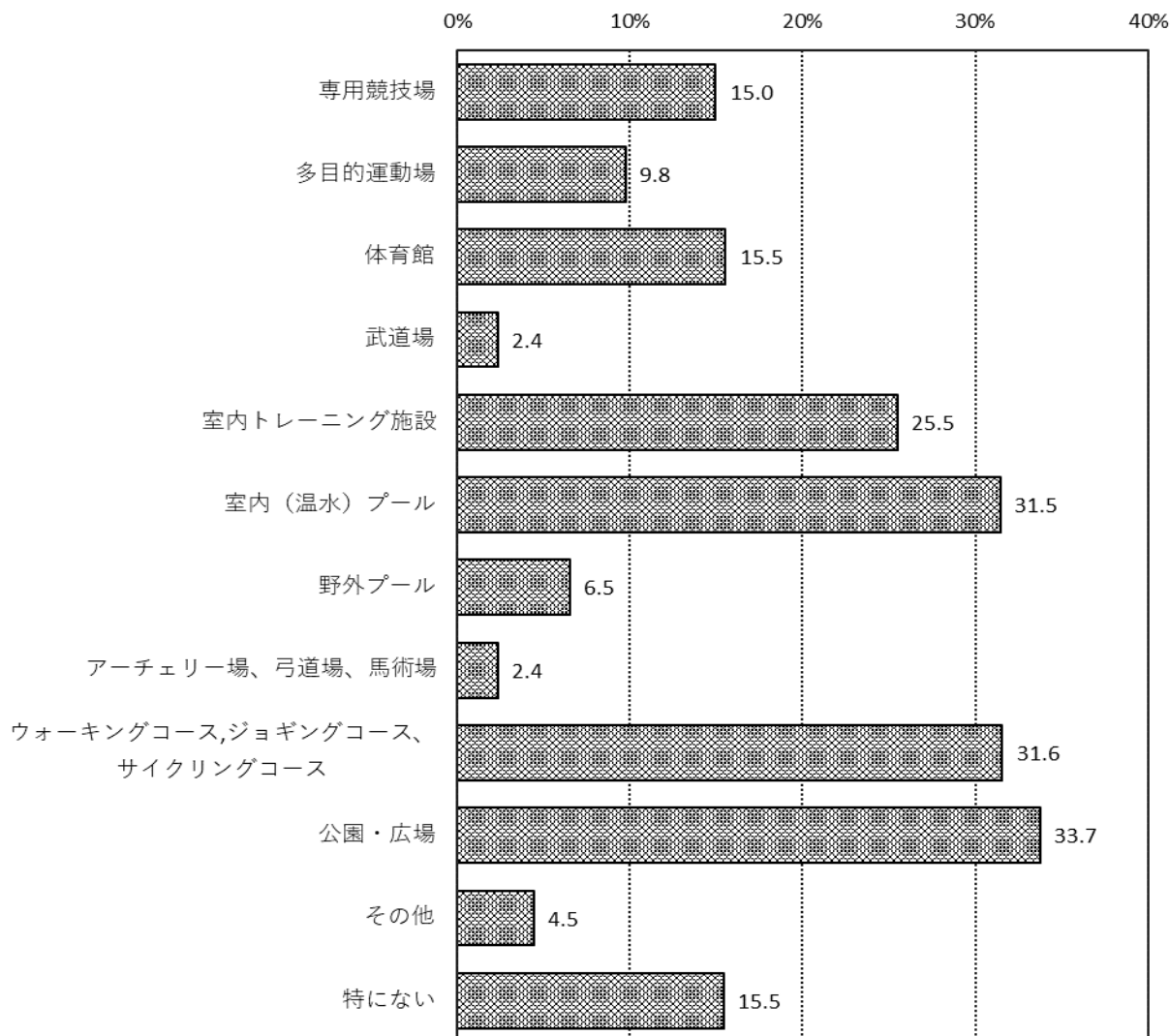
	第1位	第2位	第3位
20 歳代	施設の増設	利用料金の値下げ	特にない
	31.4%	29.4%	25.5%
30 歳代	施設の質の改善・充実	交通の利便性	施設の増設
	32.4%	28.4%	25.0%
40 歳代	施設の増設	施設の質の改善・充実	交通の利便性
	35.8%	29.7%	23.6%
50 歳代	施設の増設	交通の利便性	特にない
	33.2%	24.2%	23.7%
60 歳代	交通の利便性	特にない	施設の増設
	27.8%	25.1%	22.9%
70 歳以上	特にない	交通の利便性	施設の増設
	38.1%	20.6%	18.8%

問 17 あなたは、今後奈良市内にどのようなスポーツ施設を整備・充実していくことが必要だと思いますか。（3つまで○をつけてください。）

「公園・広場」が33.7%と最も多く、「ウォーキングコース、ジョギングコース、サイクリングコース」が31.6%、「室内（温水）プール」が31.5%、「室内トレーニング施設」が25.5%、「体育館」が15.5%と続いている。（図表 17-1）

図表 17-1 市内に必要なスポーツ施

n=1055



6. クラブや同好会、教室についてお尋ねします。

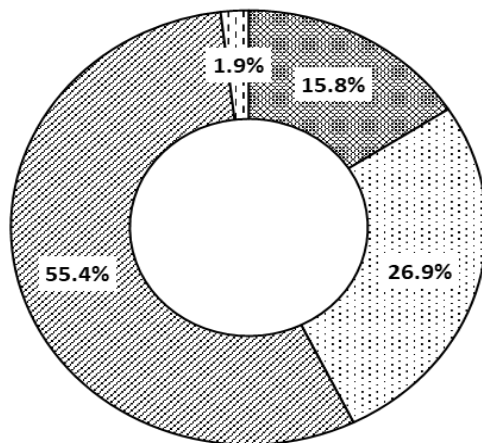
問 18 あなたは、運動やスポーツのクラブや同好会、教室などに加入していますか。（加入していましたか。）（1つだけ○をつけてください。）

「加入したことはない」が55.4%と最も多く、「以前加入していた」が26.9%、「現在、加入している」が15.8%と続いている。（図表 18-1）

次に、「運動・スポーツの頻度（問 1 1）」とクラブ等への加入状況（問 1 8）」のクロス集計結果を見ると、「現在加入している」では「週に 3 回以上」が31.1%、「週に 1～2 日」が43.7%と頻度が高くなっている。「以前加入していた」、「加入したことはない」では、「全くしない」が最も多く、その他の回答もほぼ同じ割合となっている。（図表 18-2）

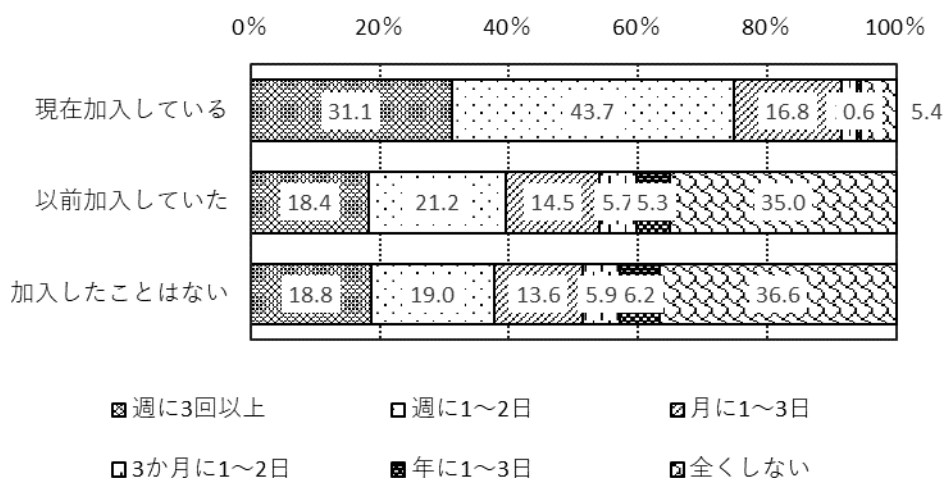
図表 18-1 クラブ等への加入状況

n=1055



■ 現在、加入している ■ 以前加入していた ■ 加入したことはない ■ 不明

図表 18-2 問 11 運動・スポーツの頻度問 × 問 18 クラブ等への加入状況



【問 18 で「1. 現在、加入している」を選ばれた方だけにお尋ねします。】

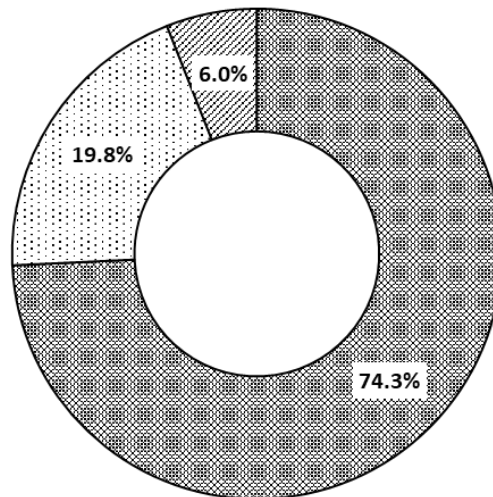
問 18 - ① あなたが加入しているクラブや同好会、教室は主にどこで活動していますか。（1 つだけ〇をつけてください。）

「奈良市内」が 74.3%であり、「奈良市外」は 19.8%となっている。（図表 18-3）

これを職業別に見ると、「学生」、「自営業、フリーランス」、「会社員」で「奈良市外」が多くなっている。（図表 18-4）

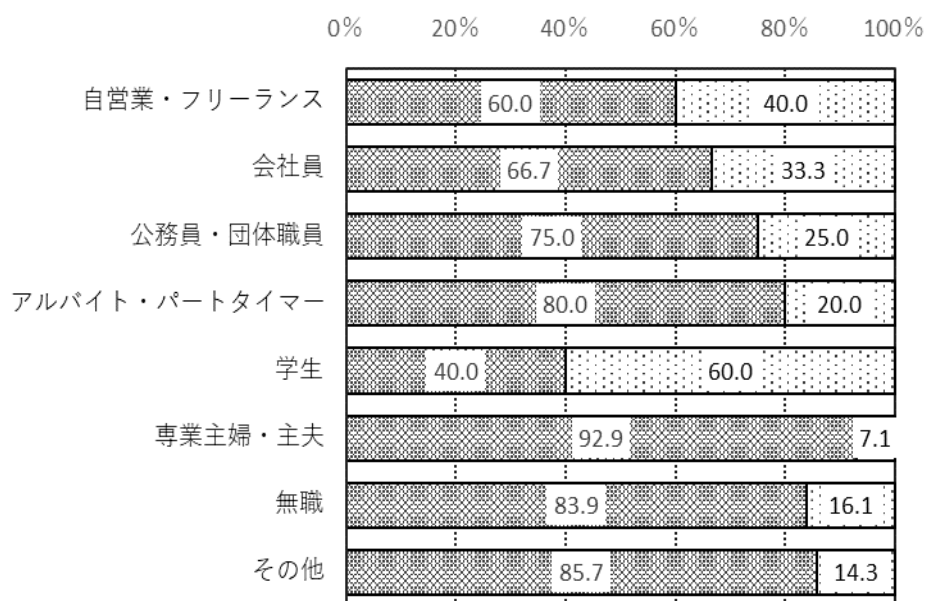
図表 18-3 クラブ等の活動場所

n=167



■ 奈良市内 ■ 奈良市外 ■ 不明

図表 18-4 クラブ等の活動場所（職業別）



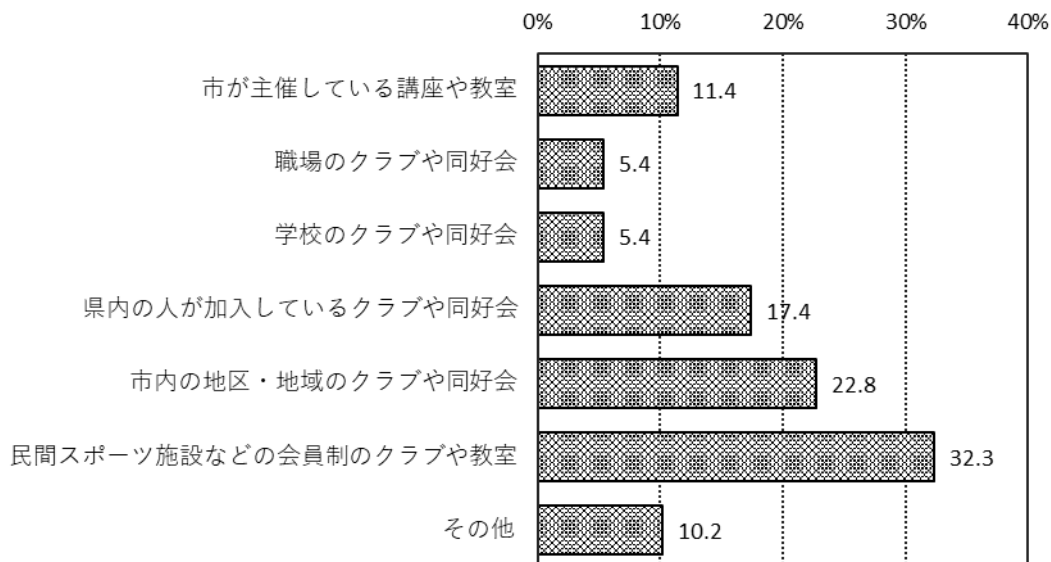
■ 奈良市内で活動している ■ 他の市・町・村で活動している

問 18 - ② あなたは、どのようなクラブや同好会、教室に加入していますか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

「民間スポーツ施設などの会員制のクラブや教室」が32.3%と最も多く、「市内の地区・地域のクラブや同好会」が22.8%、「県内の人加入しているクラブや同好会」が17.4%とこれに続いている。（図表 18-5）

図表 18-5 加入しているクラブ等の種類

n=167

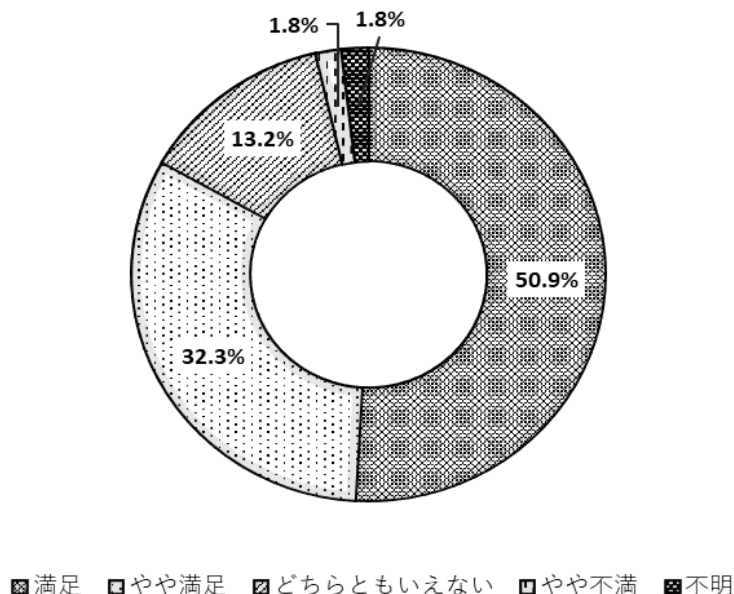


問 18 - ③ あなたは、加入しているクラブや同好会、教室に満足していますか。（1つだけ○をつけてください。）

「満足」（50.9%）及び「やや満足」（32.3%）を合わせると83.2%であり、クラブ等に対する満足度は非常に高いと考えられる。（図表 18-6）

図表 18-6 クラブ等への満足度

n=167



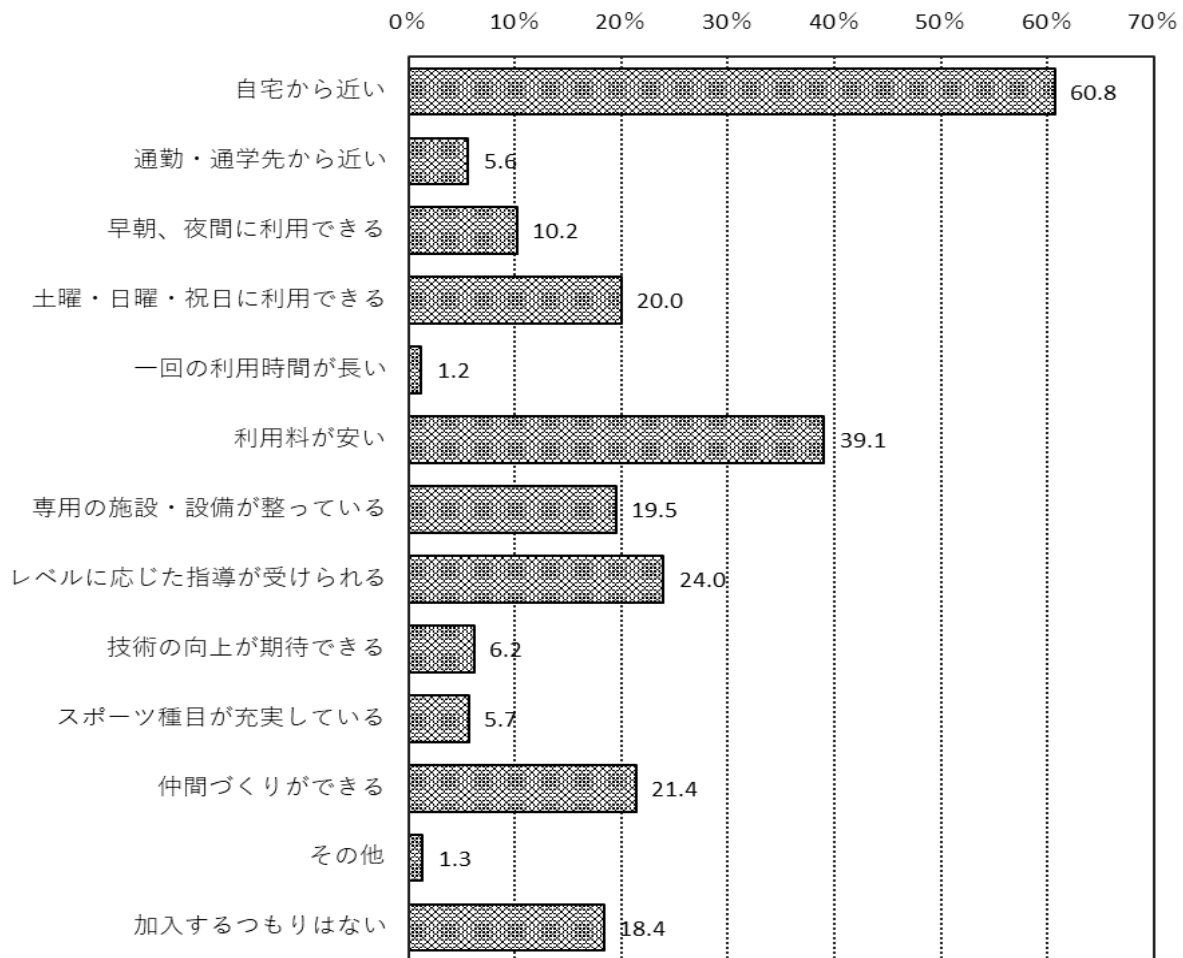
【全ての方にお尋ねします。】

問 19 あなたが、加入したいと思うクラブや同好会、教室の条件は何ですか。（3つまで○をつけてください。）

「自宅から近い」が60.8%で最も多く、「利用料が安い」が39.1%、「レベルに応じた指導が受けられる」が24.0%、「仲間づくりができる」が21.4%、「土曜・日曜・祝日に利用できる」が20.0%と続いている。（図表 19-1）

図表 19-1 クラブ等に望む条件

n=1055



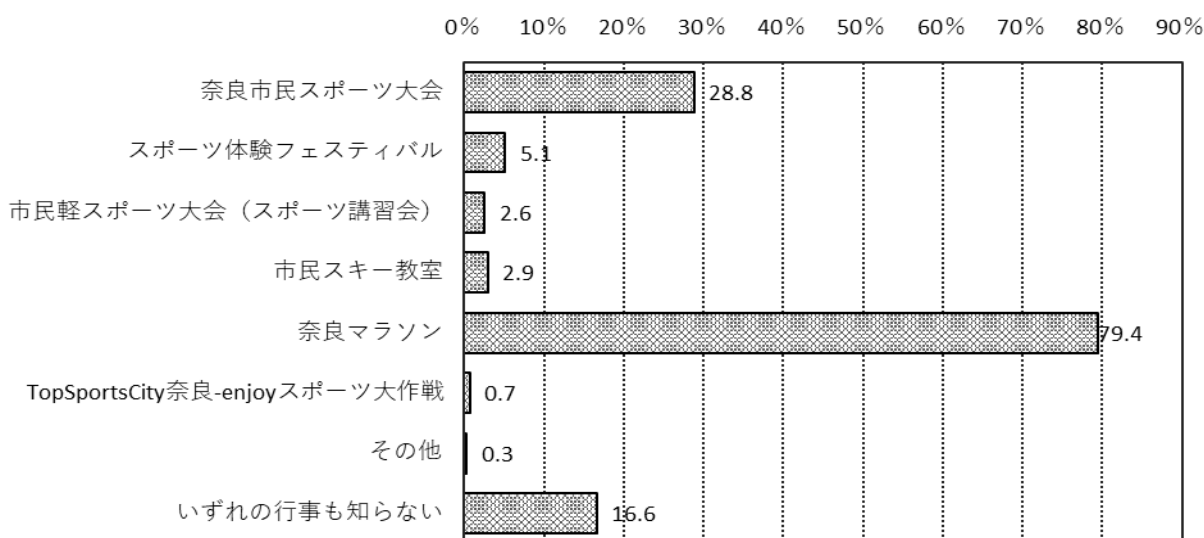
7. 奈良市のスポーツ行事及び団体についてお尋ねします。

問 20 あなたは、奈良市で行われているスポーツ行事を知っていますか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

「奈良マラソン」が 79.4%と最も多く、「奈良市民スポーツ大会」が 28.8%がこれに続いている。これら以外の行事については 1 割を下回っており、その認知度は非常に低い。また、「いずれの行事も知らない」が、16.6%見られる。（図表 20-1）

図表 20-1 市内のスポーツ行事の認知度

n=1055

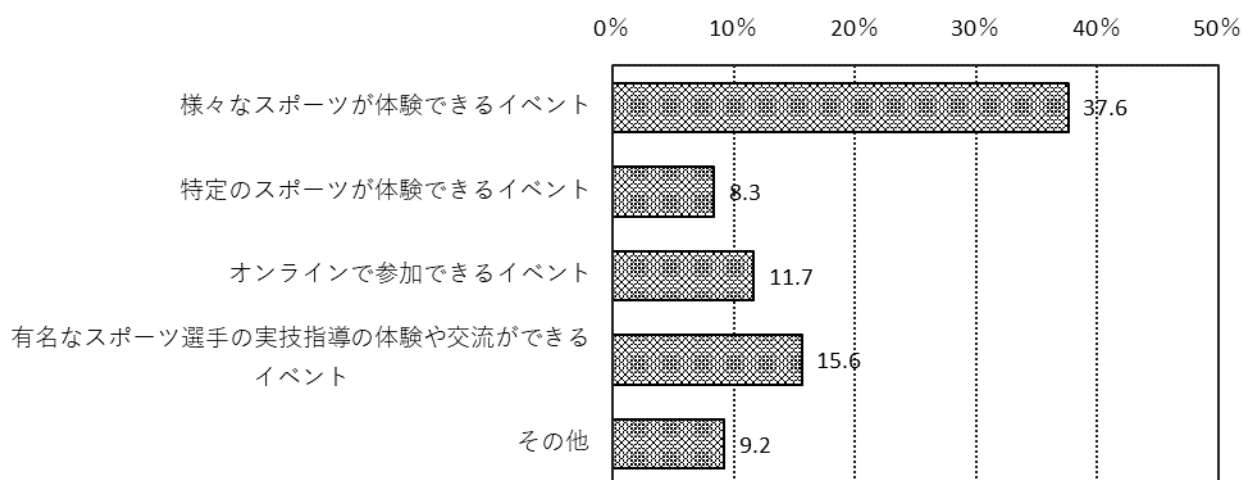


問 21 あなたは、今後、どのようなスポーツ行事やイベントに参加したいですか。（当てはまるものすべてに○をつけてください。）

「様々なスポーツが体験できるイベント」が 37.6%と最も多く、「有名なスポーツ選手の実技指導の体験や交流ができるイベント」が 15.6%、「オンラインで参加できるイベント」が 11.7%、「特定のスポーツが体験できるイベント」が 8.3%と続いている。（図表 21-1）

図表 21-1 参加したいスポーツ行事

n=1055

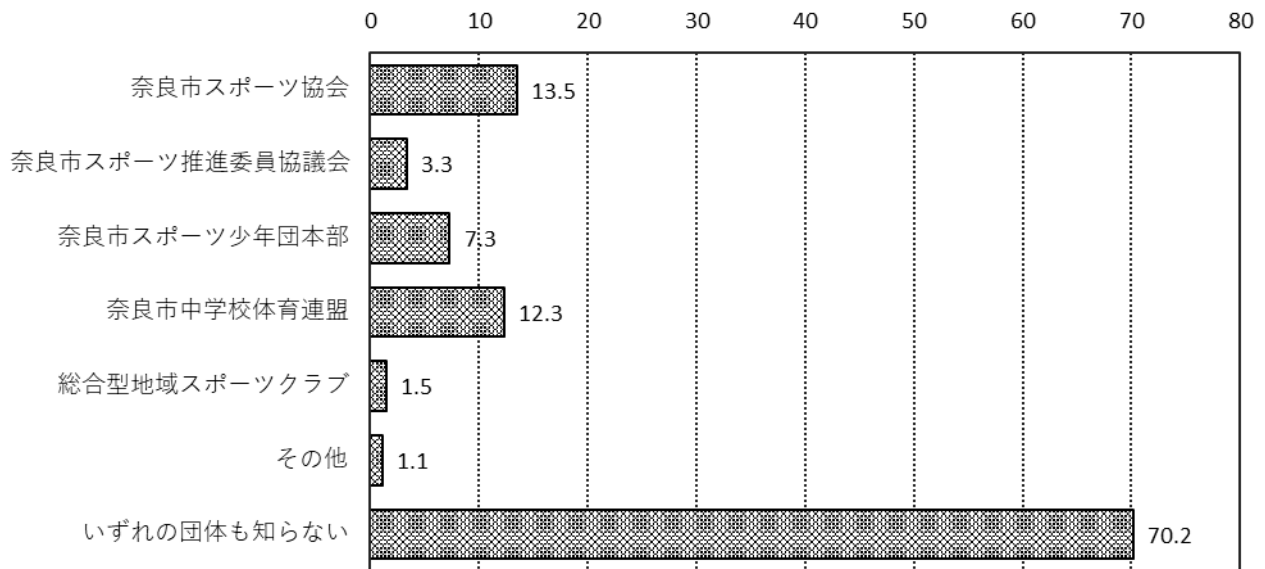


問 22 あなたは、奈良市にあるスポーツに関する団体を知っていますか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

「奈良市スポーツ協会」が 13.5%、「奈良市中学校体育連盟」が 12.3%となっている。また、「奈良市スポーツ少年団本部」が 7.3%、「奈良市スポーツ推進委員協議会」が 3.3%、「いずれの団体も知らない」が 70.2%となっており、市内各団体の認知度は非常に低い。（図表 22-1）

図表 22-1 市内のスポーツ団体の認知度

n=1055



8. 奈良市に拠点を置くスポーツチームについてお尋ねします。

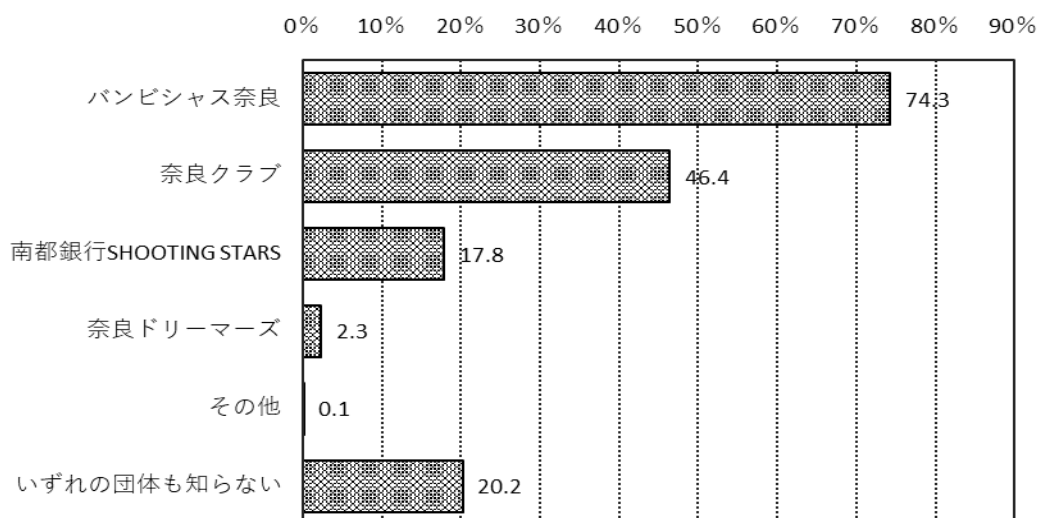
問 23 あなたは、奈良市に拠点を置いているプロスポーツチーム、またはそれに準ずるチームを知っていますか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）※所属は令和4年4月現在

「バンビシャス奈良」が74.3%と最も多く、「奈良クラブ」が46.4%、「南都銀行 SHOOTINGSTARS」が17.8%、「奈良ドリーマーズ」が2.3%と続いている。一方で、「いずれの団体も知らない」が20.2%見られる。（図表 23-1）

これを年齢別に見てみると、どの年代でも「バンビシャス奈良」が最も多く、次いで「奈良クラブ」となっている点、「40 歳代」、「50 歳代」、「60 歳代」では「南都銀行 SHOOTINGSTARS」が第3位となっており比較的認知度が高い点に特徴がある。（図表 23-2）

図表 23-1 T S C所属チーム等の認知度

n=1055



図表 23-2 T S C所属チーム等の認知度（年齢別・上位3位）

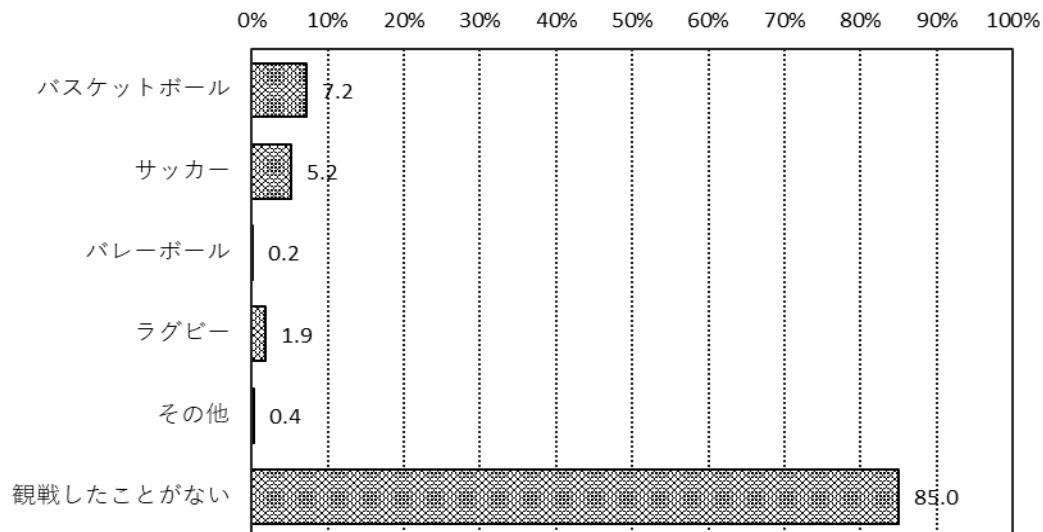
	第1位	第2位	第3位
20 歳代	バンビシャス奈良	奈良クラブ	いずれの団体も知らない
	78.4%	48.0%	18.6%
30 歳代	バンビシャス奈良	奈良クラブ	いずれの団体も知らない
	73.6%	44.6%	20.3%
40 歳代	バンビシャス奈良	奈良クラブ	南都銀行
	85.5%	55.8%	21.2%
50 歳代	バンビシャス奈良	奈良クラブ	南都銀行
	81.6%	53.7%	22.6%
60 歳代	バンビシャス奈良	奈良クラブ	南都銀行
	79.7%	44.5%	23.8%
70 歳以上	バンビシャス奈良	奈良クラブ	いずれの団体も知らない
	52.9%	35.4%	34.1%

問 24 あなたは、奈良市内で開催されたプロスポーツ等の試合を観戦（動画配信等も含む。）したことはありますか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

いずれのチームも 1 割を下回っており観戦経験は少ない。（図表 24-1）

図表 24-1 プロスポーツ等の観戦経験

n=1055



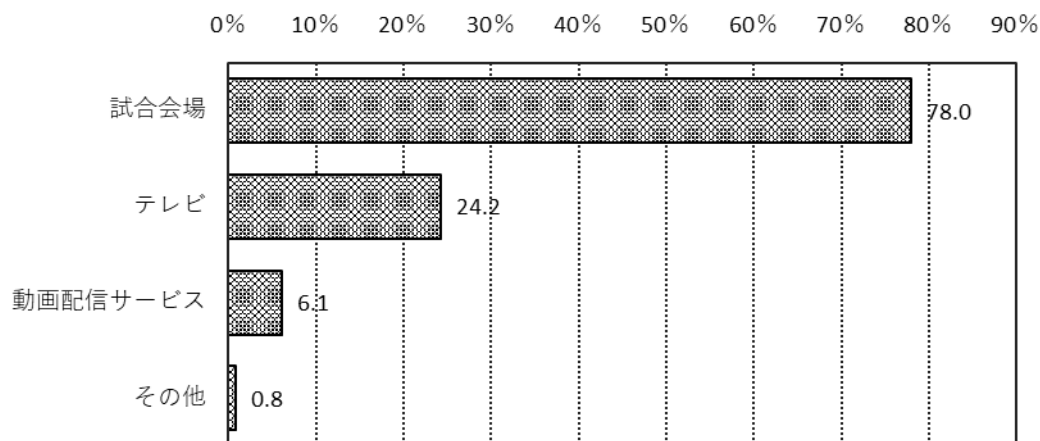
【問 24 で「1」～「5」を選ばれた方だけにお尋ねします。】

問 24-① どこで（どのように）観戦しましたか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

「試合会場」が 78.0%と最も多く、「テレビ」が 24.2%、「動画配信サービス」が 6.1%とこれに続いている。（図表 24-2）

図表 24-2 観戦方法

n=132

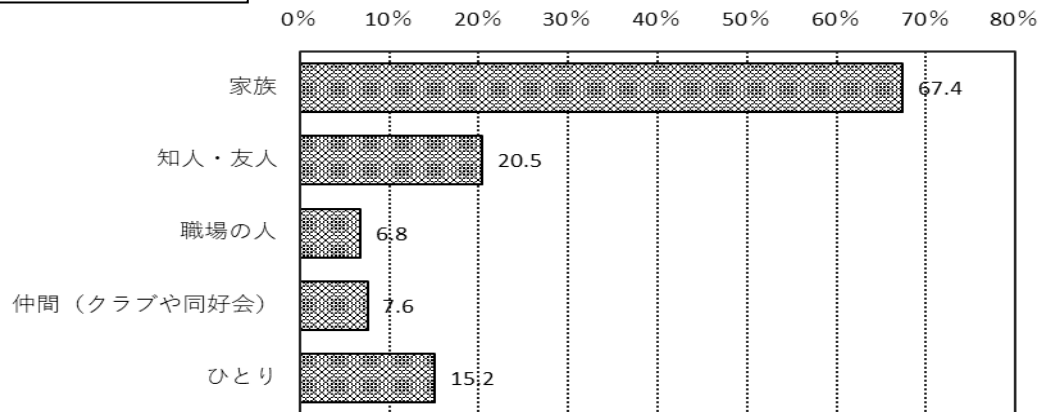


問 24-② どなたと観戦しましたか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

「家族」が 67.4%、「知人・友人」が 20.5%、「仲間（クラブや同好会）」が 7.6%、「職場の人」が 6.8%となっている。また「ひとり」が 15.2%見られる。(図表 24-3)

図表 24-3 観戦相手

n=132

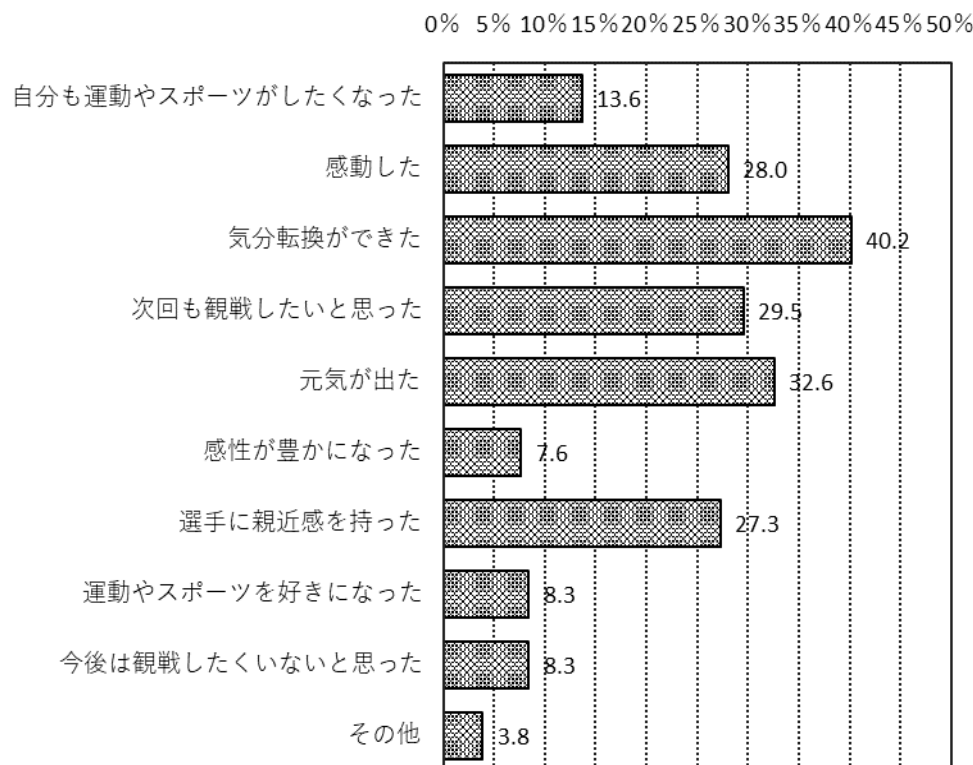


問 24-③ あなたは、観戦してどのようなことを感じましたか。(当てはまるもの全てに○をつけてください。)

「気分転換ができた」が 40.2%と最も多く、「元気が出た」が 32.6%、「次回も観戦したいと思った」が 29.5%、「感動した」が 28.0%、「選手に親近感を持った」が 27.3%とこれに続いている。(図表 24-4)

図表 24-4 観戦した感想

n=132



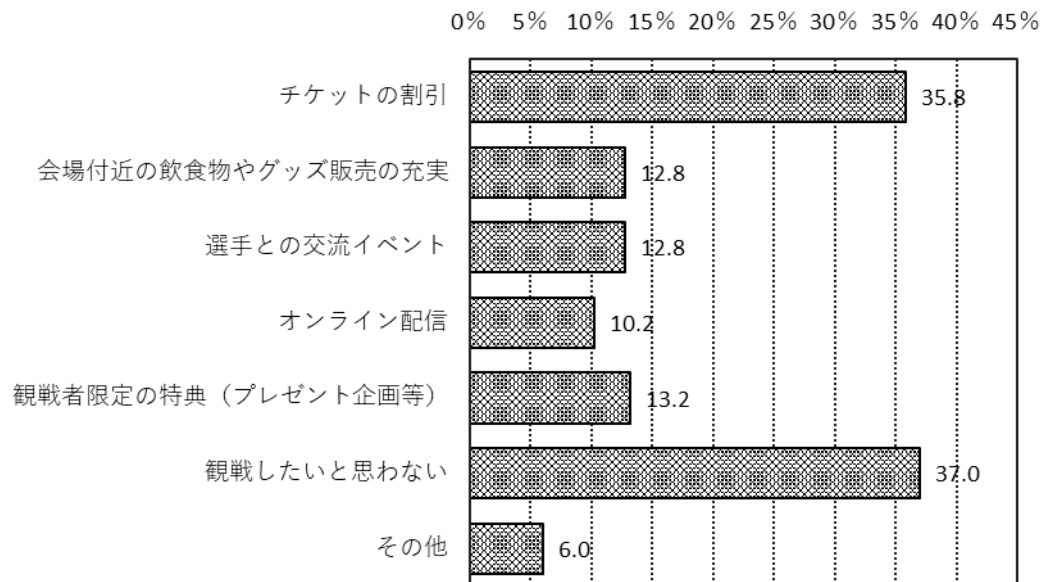
【全ての方にお尋ねします。】

問 25 今後、どのようなサービスがあれば試合を観戦したいと思いますか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

「チケットの割引」が35.8%、「観戦者限定の特典（プレゼント企画等）」が13.2%、「会場付近の飲食物やグッズ販売の充実」、「選手との交流イベント」が共に12.8%、「オンライン配信」が10.2%となっている。一方で、「観戦したいと思わない」が37.0%と最も多くなっている。（図表 25-1）

図表 25-1 観戦したいと思えるサービス

n=1055



9. 今後のスポーツ振興のために必要な施策についてお尋ねします。

問 26 今後のスポーツ振興のために、奈良市として特にどのような施策に取り組むべきだと思いますか。（5つまで○をつけてください。）

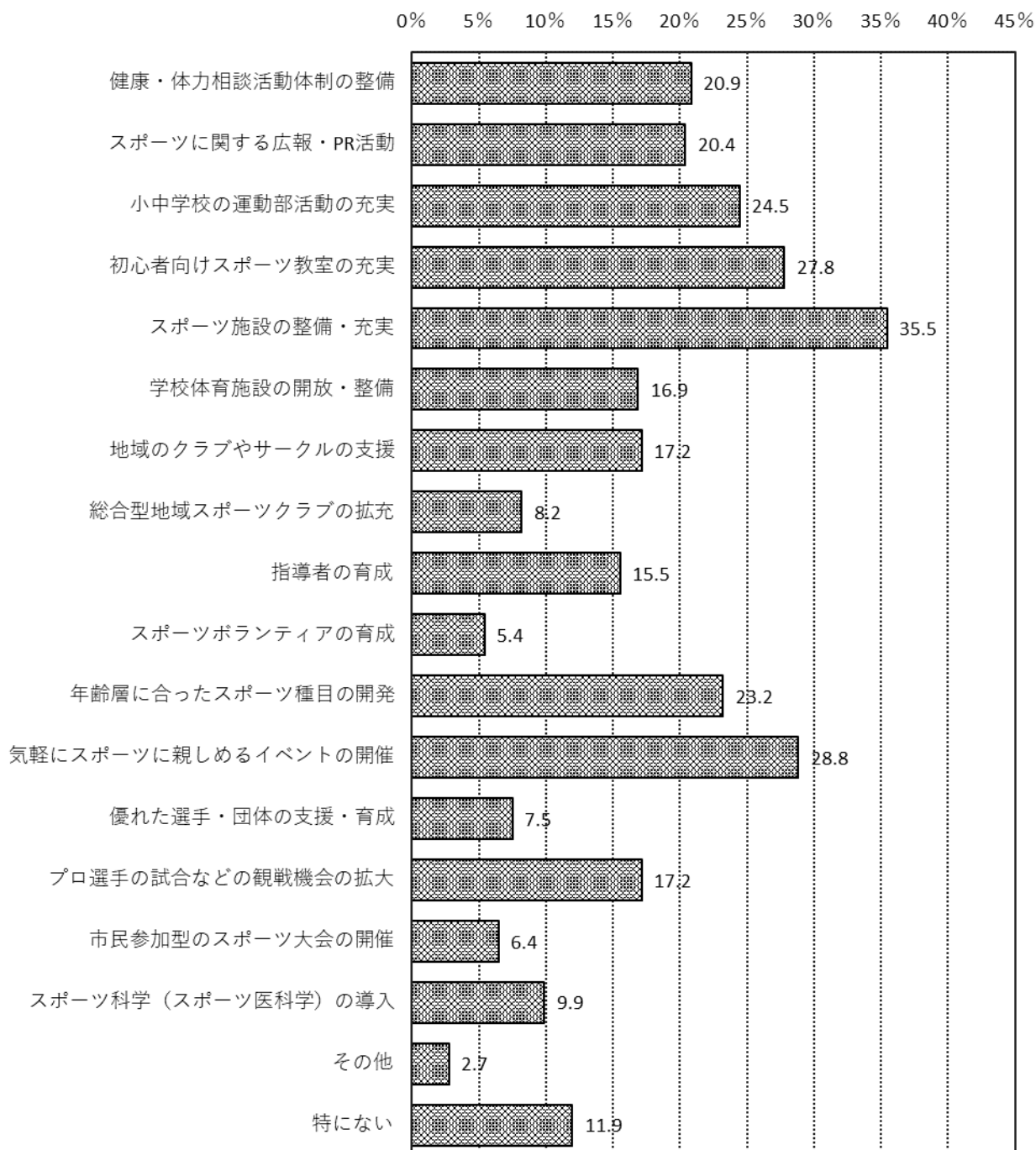
「スポーツ施設の整備・充実」が35.5%と最も多く、「気軽にスポーツに親しめるイベントの開催」が28.8%、「初心者向けスポーツ教室の充実」が27.8%、「小中学校の運動部活動の充実」が24.5%、「年齢層に合ったスポーツ種目の開発」が23.2%と続いている。（図表 26-1）

これを性別に見ると、「男性」では「スポーツ施設の整備・充実」が35.3%と最も多く、「気軽にスポーツに親しめるイベントの開催」が27.3%、「小中学校の運動部活動の充実」が22.9%とこれに続いている。「女性」では、同じく「スポーツ施設の整備・充実」が35.8%と最も多く、「初心者向けスポーツ教室の充実」が32.7%、「気軽にスポーツに親しめるイベントの開催」が30.0%とこれに続いている。（図表 26-2）

これを年齢別に見ると、「20 歳代」から「50 歳代」の年齢層で「スポーツ施設の整備・充実」が最も多く、「60 歳代」、「70 歳以上」では「年齢層に合ったスポーツ種目の開発」が上位となっている。（図表 26-3）

図表 26-1 スポーツ振興施策へのニーズ

n=1055



図表 26-2 スポーツ振興施策へのニーズ（性別・上位3位）

	第1位	第2位	第3位
男性	スポーツ施設の整備・充実	気軽にスポーツに親しめるイベントの開催	小中学校の運動部活動の充実
	35.3%	27.3%	22.9%
女性	スポーツ施設の整備・充実	初心者向けスポーツ教室の充実	気軽にスポーツに親しめるイベントの開催
	35.8%	32.7%	30.0%

図表 26-3 スポーツ振興施策へのニーズ（年齢別・上位 3 位）

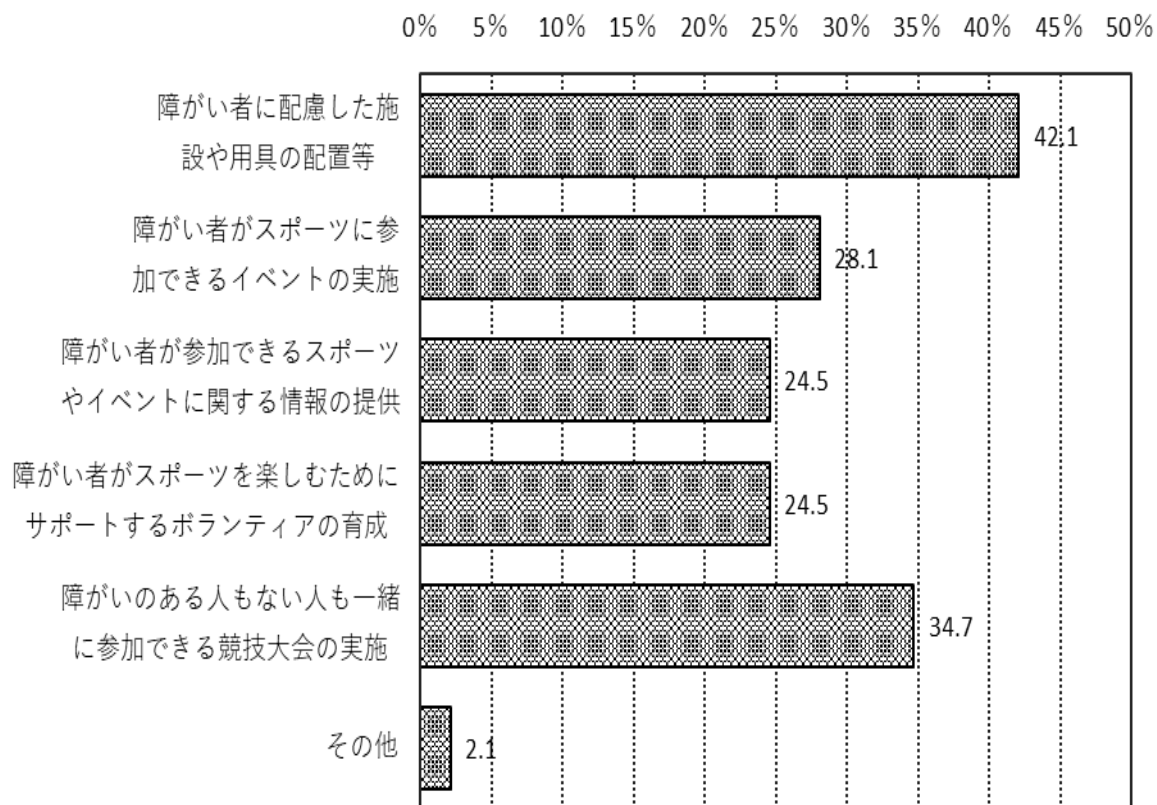
	第1位	第2位	第3位	
20 歳代	スポーツ施設の整備・充実	気軽にスポーツに親しめるイベントの開催	初心者向けスポーツ教室の充実	
	50.0%	37.3%	26.5%	
30 歳代	スポーツ施設の整備・充実	小中学校の運動部活動の充実	初心者向けスポーツ教室の充実	
	39.2%	32.4%	29.7%	
40 歳代	スポーツ施設の整備・充実	小中学校の運動部活動の充実	気軽にスポーツに親しめるイベントの開催	
	38.8%	35.2%	29.7%	
50 歳代	スポーツ施設の整備・充実	気軽にスポーツに親しめるイベントの開催	初心者向けスポーツ教室の充実	プロ選手の試合などの観戦機会の拡大
	37.9%	32.1%	24.2%	24.2%
60 歳代	初心者向けスポーツ教室の充実	スポーツ施設の整備・充実	気軽にスポーツに親しめるイベントの開催	年齢層に合ったスポーツ種目の開発
	32.6%	31.7%	31.3%	31.3%
70 歳以上	年齢層に合ったスポーツ種目の開発	初心者向けスポーツ教室の充実	スポーツ施設の整備・充実	健康・体力相談活動体制の整備
	30.9%	26.0%	25.6%	25.6%

問 27 障がい者スポーツについて、どのような施策に取り組むべきだと思いますか。（2つまで○をつけてください。）

「障がい者に配慮した施設や用具の配置等」が 42.1%と最も多く、「障がいのある人もない人も一緒に参加できる競技大会の実施」が 34.7%、「障がい者がスポーツに参加できるイベントの実施」が 28.1%、「障がい者が参加できるスポーツやイベントに関する情報の提供」、「障がい者がスポーツを楽しむためにサポートするボランティアの育成」が 24.5%とこれに続いている。（図表 27-1）

図表 27-1 障がい者スポーツに関する施策ニーズ

n=1055



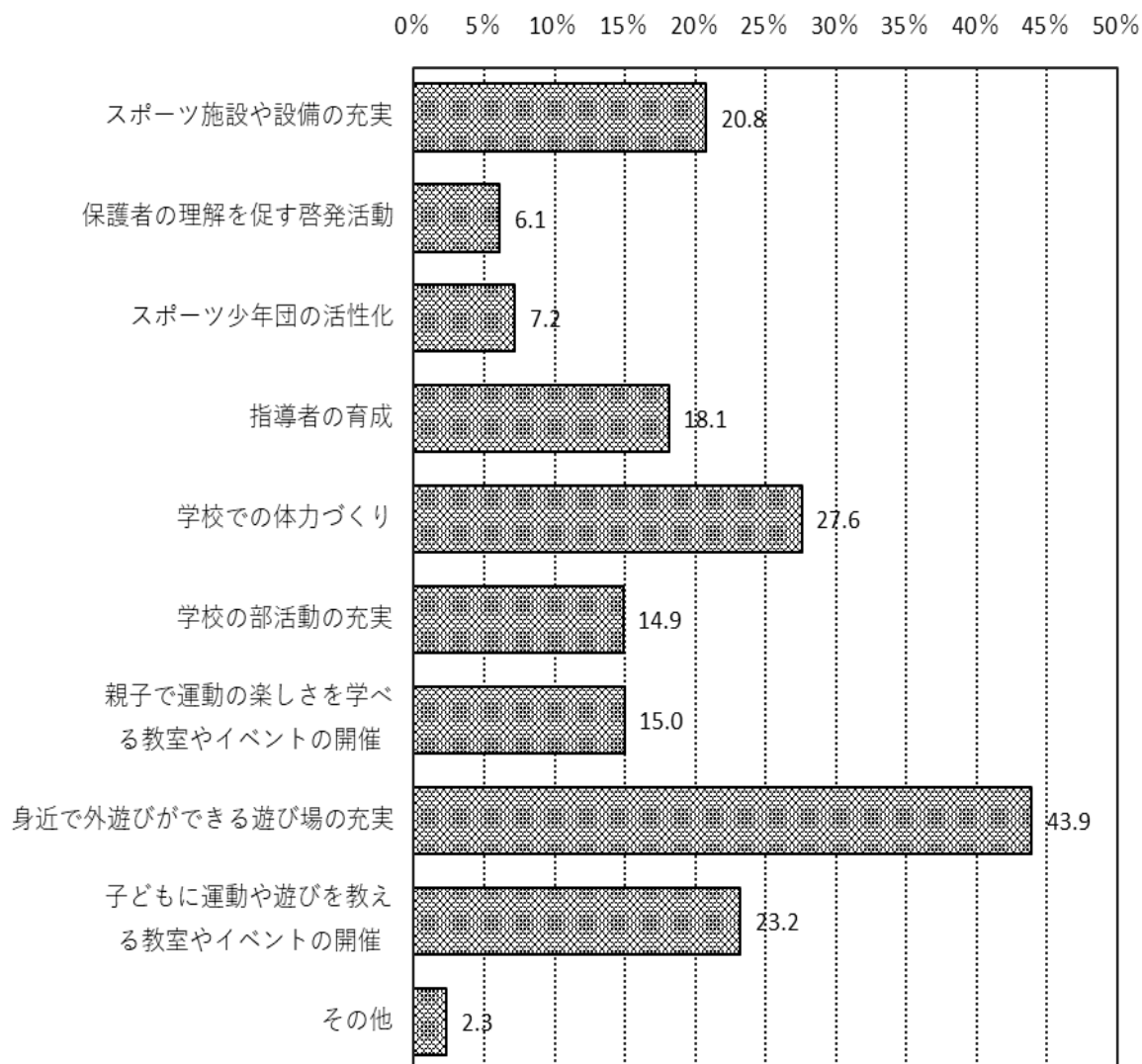
10. 子どもの体力についてお尋ねします。

問 28 今後、子どもの体力向上のため、どのような施策に取り組むべきだと思いますか。（2つまで○をつけてください。）

「身近で外遊びができる遊び場の充実」が43.9%と最も多く、「学校での体力づくり」が27.6%、「子どもに運動や遊びを教える教室やイベントの開催」が23.2%、「スポーツ施設や設備の充実」が20.8%、「指導者の育成」が18.1%とこれに続いている。（図表 28-1）

図表 28-1 子どもの体力向上に関する施策ニーズ

n=1055



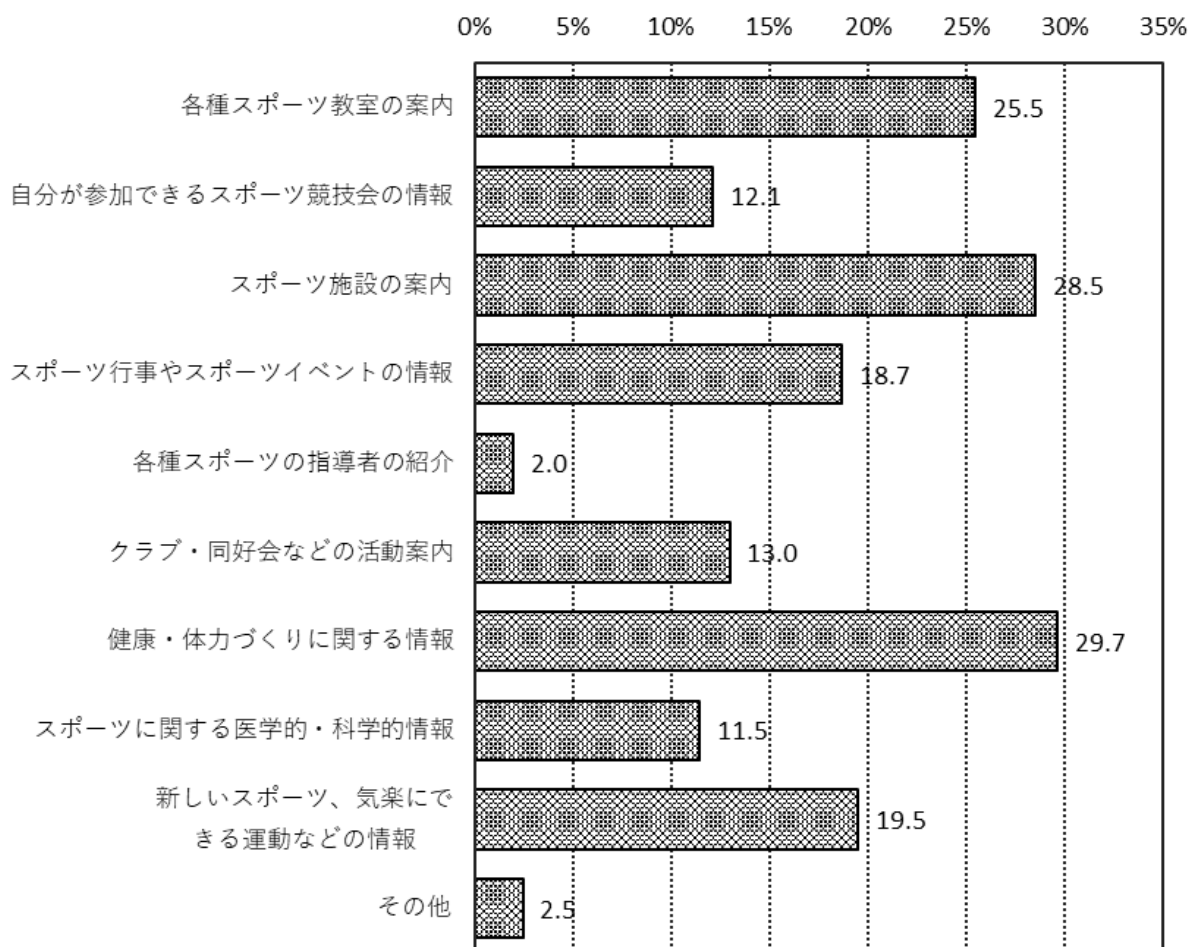
11. 今後の運動やスポーツに関する情報についてお尋ねします。

問 29 あなたは運動やスポーツに関してどのような情報が欲しいですか。(2つまで○をつけてください。)

「健康・体力づくりに関する情報」が 29.7%と最も多く、「スポーツ施設の案内」が 28.5%、「各種スポーツ教室の案内」が 25.5%、「新しいスポーツ、気楽にできるスポーツなどの情報」が 19.5%、「スポーツ行事やスポーツイベントの情報」が 18.7%とこれに続いている。(図表 29-1)

図表 29-1 運動・スポーツの情報ニーズ

n=1055



問 30 あなたは運動やスポーツに関する情報をどこから得ていますか。（当てはまるもの全てに○をつけてください。）

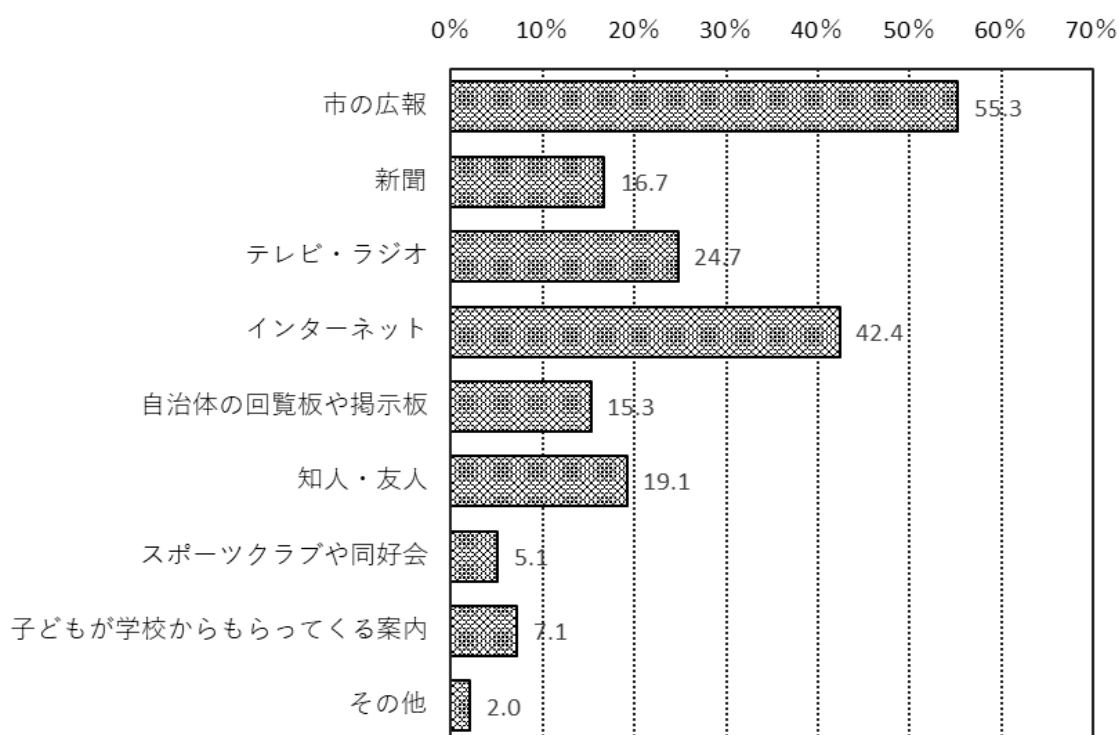
「市の広報」が55.3%と最も多く、「インターネット」が42.4%、「テレビ・ラジオ」が24.7%、「知人・友人」が19.1%とこれに続いている。（図表 30-1）

これを性別にみると、「男性」では、「インターネット」が49.4%、「市の広報」が46.8%、「テレビ・ラジオ」が27.7%となっている。一方、女性では「市の広報」が61.7%、「インターネット」が36.9%、「テレビ・ラジオ」が22.4%と「市の広報」の割合が高い。（図表 30-2）

これを年齢別に見ると、「20 歳代」から「40 歳代」の年齢層では「インターネット」を利用する割合が比較的高く、「50 歳以上」では「市の広報」が高くなっている。（図表 30-3）

図表 30-1 運動・スポーツの情報入手方法

n=1055



図表 30-2 運動・スポーツの情報入手方法（性別・上位3位）

	第1位	第2位	第3位
男性	インターネット	市の広報	テレビ・ラジオ
	49.4%	46.8%	27.7%
女性	市の広報	インターネット	テレビ・ラジオ
	61.7%	36.9%	22.4%

図表 30-3 運動・スポーツの情報入手方法（年齢別・上位 3 位）

	第1位	第2位	第3位
20 歳代	インターネット	市の広報	知人・友人
	71.6%	26.5%	20.6%
30 歳代	インターネット	市の広報	子どもが学校からもらってくる案内
	53.4%	44.6%	15.5%
40 歳代	インターネット	市の広報	子どもが学校からもらってくる案内
	57.0%	55.8%	24.8%
50 歳代	市の広報	インターネット	テレビ・ラジオ
	50.0%	48.9%	32.6%
60 歳代	市の広報	インターネット	テレビ・ラジオ
	69.2%	32.6%	28.6%
70 歳以上	市の広報	テレビ・ラジオ	新聞
	65.5%	35.4%	30.0%

11. 運動やスポーツに関する意見・要望等

問 31 全回答者 1055 件のうち、自由意見が記載された件数は 331 件（31.4%）であり、主な回答は以下のとおり。

種別	意見・要望等
公園・遊び場	公園はボール使用禁止なので、ボールを使用できる公園を増やしてほしい
	遊べる場所や公園が少ない。
	遊具や自由に遊べる広場のある公園を整備してほしい。
	雨天時でも使用できる屋内で体を動かせる場所がほしい。
	子供向けの公園、遊び場を充実させてほしい。
新たな施設の整備	競技用及び健康増進用の水泳設備（屋内プール）を増やしてほしい。
	歴史的建造物が多い奈良の土地を生かして、サイクリングロードを充実させてほしい。
	駅から近いなど、交通利便性の良い場所にスポーツ施設を設置してほしい。
	室内トレーニング施設の整備をしてほしい。
既存施設の改善と利用	施設が老朽化しているため、新設もしくは改修などして利用しやすいキレイな施設にしてほしい。
	利用時間を拡大（夜間）してほしい。
	施設の設備や備品、用具を更新したり増やしたりしてほしい。
	施設使用料の支払いをクレジット決済など現金払い以外の対応をしてもらいたい。
スポーツイベントの開催	広報やPRがなくイベントに参加できない。
	子どもから高齢者まで年代に合わせたまたは、様々な年代が一緒に気楽に参加できるイベントを開催してほしい
	平日や昼間のイベントではなく、普段仕事をしている人も参加しやすいイベントを行ってほしい。
	スポーツ体験フェスティバルは今後も継続してもらいたい。
学校における体力向上	子どもたちの基礎体力向上を実現してほしい。（学校で体力向上プログラムを組むなど）
	子どもの時期に運動習慣をつけるようにしてもらいたい。
	学校部活動の指導を、専門家を雇い指導してもらいたい。
	部活動の用具を充実させてほしい。
スポーツ教室の充実	40～60 歳代が参加できるスポーツ教室を充実してほしい。
	教室の参加しやすいさの向上や教室の情報提供を増やしてほしい。
	公民館での活動を充実してほしい。
	平日、午前の教室が多いので、土日や夜間にも教室を開催してほしい。
指導者の育成・確保	指導者への研修実施や指導者の技量を向上をしてほしい。
	子どもたちが生涯、スポーツを継続できるような指導をしてほしい。
	指導者が不足している。

スポーツに関する 情報提供	市の施設やイベントの情報が少ない。
	様々な方法で情報提供してほしい。
	ホームページやポスターなど、もっと分かりやすくしたり人の心を掴むデザインにするなど工夫してほしい（デザイナーを雇うなど）。
	奈良市出身でスポーツで活躍している人をPRしてほしい（市全体での応援機運の醸成やレベルの向上につながる）。
スポーツができる 環境づくり	施設へのアクセスを良くしてほしい。
	スポーツを気軽に楽しめる機会、場所、集まりがあればよい。
	様々な障害がある人がスポーツをできる機会を設けてほしい。
	健康増進とスポーツを繋げる等して施策を増やしてほしい。
トップアスリートの 育成	奈良市から世界で活躍する選手の育成をしてほしい。
	優れた指導者、選手、団体への支援。
	プロや全国規模の大会を開催できる施設整備をしてほしい。